

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	がっこうほうじん にいがたせいりょうがくえん 学校法人 新潟青陵学園									
フリガナ大学の名称	にいがたせいりょうだいがく 新潟青陵大学 (Niigata Seiryō University)									
大学本部の位置	新潟県新潟市中央区水道町1丁目5939番地の27									
大学の目的	教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の精神にのっとり、有為な人材を育成して、人類の福祉と文化の向上とに貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	福祉心理子ども学部等の教育上の目的は、生命尊重・人間尊重の理念に基づき、人々の生活の質の向上をはかるため、社会福祉学、心理学及び子ども発達学の専門知識・技術の応用力、豊かな感性、国際感覚を持ち合わせた専門職業人を養成することにある。子ども発達学科においては、子どもの発達過程についての確かな知識を有し、健やかで最大限に充実した、その子らしい乳幼児期の生活を支援するための様々な方法や思考の枠組みを身につけて、専門職者や市民として社会に貢献できる人材を育成するものである。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	福祉心理子ども学部 (Faculty of Social Welfare, Psychology and Child Development) 子ども発達学科 (Department of Child Development)	4	40	3年次 5	170	学士 (子ども発達学)	令和5年4月 第1年次 令和7年4月 第3年次	新潟県新潟市中央区 水道町1丁目5939番地の27 同上		
	計		160	10	170					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		福祉心理学部 社会福祉学科〔定員減〕(△40) (令和5年4月) 令和5年4月名称変更予定 福祉心理学部 → 福祉心理子ども学部								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	福祉心理子ども学部 子ども発達学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	福祉心理子ども学部 子ども発達学科		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
				7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	80 (41)
		計		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (-)
	既設分	福祉心理子ども学部 社会福祉学科		7 (7)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	71 (36)
		福祉心理子ども学部 臨床心理学科		8 (8)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	68 (38)
		看護学部 看護学科		14 (14)	6 (6)	1 (1)	11 (11)	32 (32)	7 (7)	66 (37)
		計		29 (29)	17 (17)	1 (1)	14 (14)	61 (61)	7 (7)	- (-)
	合計			36 (36)	19 (19)	1 (1)	14 (14)	70 (70)	7 (7)	- (-)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		7人 (7)	45人 (45)	52人 (52)					
	技 術 職 員		0 (0)	2 (2)	2 (2)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	3 (3)	5 (5)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	2 (2)	2 (2)					
計		7 (7)	54 (54)	61 (61)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	新潟青陵大学 新潟青陵大学短期 大学部 借地1,052.20㎡ 借用期間 平成19年4月1日 から30年間				
	校 舎 敷 地	0.00㎡	29,303.38㎡	0.00㎡	29,303.38㎡					
	運 動 場 用 地	0.00㎡	15,592.00㎡	0.00㎡	15,592.00㎡					
	小 計	0.00㎡	44,895.38㎡	0.00㎡	44,895.38㎡					
	そ の 他	0.00㎡	8,597.00㎡	0.00㎡	8,597.00㎡					
合 計	0.00㎡	53,492.38㎡	0.00㎡	53,492.38㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	新潟青陵大学 新潟青陵大学短期 大学部				
		3,276.60㎡ (3,276.60㎡)	16,296.23㎡ (16,296.23㎡)	1,178.67㎡ (1,178.67㎡)	20,751.50㎡ (20,751.50㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	42室	12室	19室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		申請学科 全体				
		福祉心理子ども学部子ども発達学科		9 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定 不可能なため、 大学全体の数		
	福祉心理子ども学部 子ども発達学科	30,250 [1,249] (27,846 [1,245])	575 [489] (556 [479])	495 [475] (480 [465])	885 (865)	2,859 (2,859)	237 (237)			
	計	30,250 [1,249] (27,846 [1,245])	575 [489] (556 [479])	495 [475] (480 [465])	885 (865)	2,859 (2,859)	237 (237)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		1,621.45㎡		238	151,667					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		1,192.70㎡		野球場 1面						
経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	経費の見積り	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請学科全体 図書費には、電子 ジャーナル・データ ベースの整備費 (運用コスト含む)を 含む。
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	2,886千円	4,888千円	4,888千円	5,015千円	5,141千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	— 千円	16,840千円	8,656千円	8,852千円	9,046千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,300千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、手数料収入、資産運用収入、雑収入等							
既設大学等の状況	大 学 の 名 称		新潟青陵大学							
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	看護学部 看護学科		4	90	3年次 -	360	学士(看護学)	1.02 1.02	平成27年度	新潟県新潟市中央区 水道町1丁目5939 番地の27
	福祉心理学部 社会福祉学科		4	90	3年次 5	370	学士(社会福祉学)	1.06 1.04	平成27年度	
	臨床心理学科		4	50	5	210	学士(臨床心理学)	1.10	平成27年度	
	臨床心理学研究科 臨床心理学専攻		2	10	-	20	修士(臨床心理学)	1.00	平成18年度	
	看護学研究科 看護学専攻		2	6	-	6	修士(看護学)	0.75	平成26年度	

既設大学等の状況	大学の名称	新潟青陵大学短期大学部							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員 年次人	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
	人間総合学科 幼児教育学科	年 2 2	人 200 130	- -	人 400 260	短期大学士(人間総合学) 短期大学士(介護福祉学) 短期大学士(幼児教育学)	1.05 0.99	平成16年度 昭和43年度	
附属施設の概要	該当なし。 【参考】 認定こども園新潟青陵幼稚園(設置学科と同一キャンパス内) 所在地:新潟市水道町1丁目5939番地の27 設置年月:昭和42年4月(令和2年4月、幼稚園型認定こども園化) 規模等:園舎面積1,682.28㎡ 園児数:1号認定30人 2号認定120人 合計150人								

教育課程等の概要															
(福祉心理子ども学部子ども発達学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	導入教育科目	スタートアップセミナー	1前	1											兼2 オムニバス・集中
		スタディスキル	1前	1					3	1					
		スタディスキル	1後		1				3	1					
		国語表現基礎	1前			1				1					
		数学基礎	1前			1									兼1
		英語基礎	1前			1									兼1
		IT基礎演習	1前			1									兼1
		キャリアデザイン入門	1前	1											兼1
	小計(8科目)	-	3	1	4	-	-	-	6	2	0	0	0	0	兼6 -
	教養基礎科目	哲学	2前		1										
心理学		1前		1											兼1
芸術学		2後		1											兼1
文学		4前		1											
地域文化論		1前		1					1	1					兼1 オムニバス
法律学		1後		1											兼1
経済学		2前		1											兼1
経営学		2前		1											兼1
社会学		1後		1											兼1
化学		3後		1											兼1
生物学		1前		1											兼1
小計(11科目)	-	0	11	0	-	-	-	1	1	0	0	0	0	兼10 -	
サイエンス科目	ITと社会	1前		1											兼1
	統計学	1前		1											兼1
	IT活用演習	1前	1												兼1
	IT活用演習	1後		1											兼1
	データ活用演習	3後		1											兼1
	データ活用演習	3後		1											兼1
小計(6科目)	-	1	5	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼3 -	
地域連携とボランティア科目	地域連携とボランティア	1前	1						1						
	国際ボランティア論	4後		1											兼1
	ボランティア実習	2後		1					1						兼1 集中・共同
	ボランティア実習	3後		1					1						兼1 集中・共同
	地域連携実習	2前		1											兼1 集中
	地域連携実習	3前		1											兼1 集中
小計(6科目)	-	1	5	0	-	-	-	1	0	0	0	0	0	兼2 -	
複合・学際科目	人の暮らしと日本国憲法	2後		2											兼1
	人の生と死	4前		2											兼4 オムニバス
	看護・福祉史	1前		2											兼3 オムニバス
	人間発達学	1後		2					1						
	保健医療社会学	4前		2											兼1
	現代社会と諸問題	1前		2											兼1
	現代社会と諸問題	1後		2											兼2 オムニバス
	新潟学	1前		2											兼1
小計(8科目)	-	0	16	0	-	-	-	1	0	0	0	0	0	兼12 -	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
全学共通科目	外国語と国際交流科目	外国語学習ストラテジー	1前	1											兼3	共同(一部)		
		英会話	1前	1													兼6	
		英会話	1後	1													兼6	
		英語情報収集	1後		1												兼3	
		英語情報収集	2前		1												兼1	
		英語情報発信	2前		1												兼4	
		英語情報発信	2後		1												兼1	
		目的別英語	2前		1												兼5	
		目的別英語	2後		1												兼5	
		TOEIC・TOEFL演習	1前		1												兼1	
		TOEIC・TOEFL演習	1後		1												兼1	
		初修第二外国語入門	1前		1												兼6	
		初修第二外国語基礎	1後		1												兼5	
		外国語としての日本語	1前			1											兼1	集中
		外国語としての日本語	1前			1											兼1	集中
		海外研修	1前			1											兼2	共同・集中
		海外研修	1後			1											兼2	共同・集中
	海外研修	1後			2										兼2	集中		
	海外研修	2前			4										兼2	集中		
	国際交流	2前			1										兼4	集中		
	国際交流	2後			1										兼4	集中		
小計(21科目)		-	3	20	2				0	0	0	0	0	兼19	-			
スポーツ健康と スポーツ科目	健康・スポーツ科学	3後		1											兼1			
	スポーツ	1後		1											兼2			
	スポーツ	2前		1											兼2			
	スポーツ	3後		1						1								
小計(4科目)		-	0	4	0				0	1	0	0	0	兼3	-			
専門科目	福祉心理子ども学部専門基礎科目	社会福祉原論	1前	2											兼1			
		社会福祉原論	1後		2										兼1			
		社会福祉特別講義	3後		1										兼3	共同		
		社会福祉特別演習	4前		1										兼3	共同		
		社会調査論	3後		2										兼1			
		家族福祉論	4前		2						1							
		医療福祉論	2後		1											兼1		
		人体の構造と機能及び疾病	1前		1											兼1		
		精神疾患とその治療	2通		2											兼1		
		精神保健学	2前		2											兼3	オムニバス	
		精神保健学	2後		2											兼3	オムニバス	
		コミュニティビジネス概論	1前		2											兼1		
		コミュニティビジネス概論	1後		2											兼1		
		心理学概論	3前		2											兼1		
		家族心理学概説	3前		2											兼1		
		障害者・障害児心理学	2後		2											兼1		
		児童臨床心理学	2前		2											兼1		
		発達心理学	2前		2						1							
		発達心理学	2後		2											兼1		
		発達心理学	2後		2						1							
教育・学校心理学	3後		2						1									
教師論	2後		2						1									
教育制度論	4前		2			○			1									
小計(23科目)		-	8	34	0				3	0	0	0	0	兼15	-			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目	就業力育成科目	キャリアデザイン		1											兼1	集中		
		キャリアデザイン	1後		1												兼1	
		キャリアデザイン	1後		1													兼1
		キャリアデザイン	2前		1													兼1
		現代社会とメディア	4前		1													兼1
		現代社会とメディア	4後		1													兼1
		就業力育成演習	3後		1													兼1
		就業力育成演習	4前		1													兼1
		インターンシップ	2後		2													兼1
		数的推理・判断推理	2前			1												兼1
		数的推理・判断推理	2後			1												兼1
		ビジネスアプリケーション	1後			1												兼1
		ビジネスアプリケーション	2前			1												兼1
		ビジネスアプリケーション	2後			1												兼1
		ビジネスアプリケーション	2後			1												兼1
		ITストラテジー	2前			1												兼1
		ITマネジメント	2後			1												兼1
		ITテクノロジー	3前			1												兼1
		医療管理学	3後		1													兼1
		医療秘書実務	3後		1													兼1
		医療事務	3後		1													兼1
	医療事務	3後		1												兼1		
	小計(21科目)	-	0	13	9	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼8	-		
	地域連携関連科目	コミュニティと観光	2後		1											兼1	オムニバス 共同	
		コミュニティとICT	3前		1											兼1		
		コミュニティとアート	3前		1											兼2		
		コミュニティとスポーツ	2後		1					1						兼1		
レクリエーション論		1前		2											兼1			
スポーツ・レクリエーション論		1後		2											兼1			
レクリエーション活動援助法		1通		2											兼2			
レクリエーション現場実習		1後		1											兼1			
福祉レクリエーション論		3前		2											兼1			
福祉レクリエーション援助論		3後		2											兼1			
福祉レクリエーション演習		3通		1											兼1			
コミュニティビジネス実践論		2後		1											兼4			
小計(12科目)	-	0	17	0	-	-	-	0	1	0	0	0	0	兼9	-			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	教育・保育の基礎領域	保育者論	3後	2					1							兼1 兼2 兼1 兼1 兼1	オムニバス・共同(一部)
		教育本質論	2前	2					1								
		保育原理	1前		2				1								
		教育原理	1後		2												
		保育の計画と評価	3後	2					1								
		子どもの健康と安全	2前		1												
		子どもの食と栄養	2通		2												
		子どもの保健	1前		2												
		教育相談(カウンセリングを含む)	4前	2													
	小計(9科目)	-	8	9	0	-	-	2	0	0	0	0	0	兼6	-		
	教育・保育の内容・方法領域	保育内容総論	1前	2						1						兼2 兼5 兼1 兼2	オムニバス・共同(一部)
		教育方法論	3後		2				1								
		子どもと健康	2後		2					1							
		健康指導法	3前	2						1							
		子どもと人間関係	2後		2				1								
		人間関係指導法	3前	2					1								
		子どもと環境	2前		2				1								
		環境指導法	2後	2					1								
		子どもと言葉	1後		2					1							
		言葉指導法	2後	2						1							
		子どもと表現	1前		2					1							
		表現指導法	2後	2					1								
乳児保育		2前		2				1									
乳児保育	2後		1										兼2				
子どもの理解と援助	2後	1					3										
特別の支援を必要とする乳幼児の保育	3通		2				1										
子どもの音楽遊び	1通		2				1										
子どもの運動遊び	1後		1					1									
子どものことば遊び	1後		1					1									
子どもの造形遊び	1後		1										兼1				
保育技術	2前		1					2									
保育技術	2後		1				1										
小計(22科目)	-	13	24	0	-	-	4	2	0	0	0	0	兼8	-			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	教育・保育の挑戦・追究領域	幼稚園教育実習指導	3前・4前		1					5	2					共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) 共同
		幼稚園教育実習	3前		2					5	2					
		幼稚園教育実習	4前		2					5	2					
		保育実習指導	2通		2					5	2					
		保育実習	2通		4					6	2					
		保育実習指導	3後		1					2	2					
		保育実習	3後		2					3	2					
		保育実践演習	4通		2					2	1					
		子ども発達学ゼミナール	3前	1						7	2					
		子ども発達学ゼミナール	3後	1						7	2					
		子ども発達学ゼミナール	4前	1						7	2					
		子ども発達学ゼミナール	4後	1						7	2					
		卒業研究	4通	2						7	2					
小計(13科目)		-	6	16	0				7	2	0	0	0	兼0	-	
専門科目	子育て支援と地域福祉領域	子ども家庭支援論	3前		2					1					共同 兼1 兼1	
		子ども家庭支援の心理学	3前		2					1						
		子育て支援	2後		1					2						
		子育て支援	3後		1					1						
		児童福祉論	2前	2						1						
		児童福祉論	2後		1					1						
		社会的養護	1後		2					1						
		社会的養護	2前		1					1						
		地域福祉論	2前		2											兼1
		地域福祉論	2後		1											兼1
小計(10科目)		-	2	13	0				4	0	0	0	0	兼1	-	
専門科目	社会保障と地域社会領域	社会保障論	1前		2										兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 共同 共同	
		社会保障論	1後		1											
		障害者福祉論	2前		2											
		ソーシャルワークの基盤と専門職	1前		1											
		ソーシャルワークの基盤と専門職	1後		1											
		ソーシャルワークの理論と方法	2前		1											
		ソーシャルワークの理論と方法	2後		1											
		ソーシャルワーク実習指導	3後~4後		2					2						
		ソーシャルワーク実習	3後		2					2						
		ソーシャルワーク実習	4通		4					2						
小計(10科目)		-	0	17	0				2	0	0	0	0	兼4	-	
合計(184科目)			-	45	205	15			7	2	0	0	0	兼80	-	
学位又は称号		学士(子ども発達学)	学位又は学科の分野				教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>必修科目45単位(全学共通科目8単位、学部共通科目8単位、学科専門科目29単位)、選択科目79単位以上(全学共通科目から12単位以上、学部共通科目から16単位以上、学科専門科目から31単位以上、前記いずれかの科目から20単位以上)を修得し、124単位以上修得すること。</p> <p>ただし、全学共通科目の選択科目には、教養基礎科目から3単位以上、ITとデータサイエンス科目もしくは地域連携とボランティア科目から1単位以上、複合・学際科目から4単位以上、外国語と国際交流科目から3単位以上、健康とスポーツ科目から1単位以上を含めること。</p> <p>また、他学科履修科目については12単位まで卒業要件の学部共通科目の選択科目単位として認める。</p> <p>なお、履修単位の上限数は、原則として各学期25単位とする(集中科目、実習科目、自由科目、単位認定制度による単位認定は除く)。ただし、各学期のGPAによりこの上限を調節する。</p>						1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

授 業 科 目 の 概 要				
(福祉心理子ども学部子ども発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 共通科目	導入 教育科目	スタートアップセミナー	(概要) 新入生の導入教育として、4年間の学生生活を有意義なものにするため、大学生として必要なソーシャルスキルおよびスタディスキル(図書館やインターネットでの情報収集方法など)の習得を目指すとともに、卒業後の希望職種のために学習計画を考えさせる。 (オムニバス方式/全8回) (14 柄澤清美/4回) 1) 大学生として看護学および福祉心理学を学ぶことの意義、将来の就職に備えたインターンシップ、履修計画の立て方などを理解させる。また、スタディスキルの概略を理解させる。 (16 菅原真優美/4回) 2) 環境問題、健康管理、喫煙の害などについて理解させるとともに、学生生活全般にわたる留意事項を学ばせる。また、大学生として必要なソーシャル・スキルを身につけさせる。	オムニバス・ 集中
		スタディスキルⅠ	少人数単位の演習により他者との交流を通じて、大学での主体的な学びについて考え、基本的なスタディスキルを習得する。大学生の基本的スタディスキルとしては、社会的なルール・マナー、授業への臨み方、話の聞き方、レポートの書き方等である。	
		スタディスキルⅡ	少人数単位の演習により、文献検索・レポート作成・プレゼンテーションに関するスタディスキルを学ぶ。演習は、各自の興味・関心のあるテーマについて資料収集を行い、そのテーマが持つ構造と論点を整理する。それに基づき自分の意見をまとめ、ハンドアウトを作成し、それにそって自分の意見をプレゼンテーションする体験を通じて学ぶ。	
		国語表現基礎	(学問分野の専門的な用語を除き)新聞や新書を読むのに必要とされることばの知識や、思考内容を的確に表すのに必要な語彙を習得する。ドリル形式で学習を進め、小テストをすることによって定着度を測る。	
		数学基礎	高等学校までの算数・数学の内容を学び直し、これまでの学習を再確認し整理することで、算数・数学の知識の定着を図る。基礎的な計算能力を補強するとともに、割合、単位量、方程式、関数、確率などの特につまずきやすい内容を取り上げて概説する。大学で学ぶ統計学や専門科目、一般社会において必要となる算数・数学の基本概念の理解に重点をおきながら、数学的な考え方のよさや数学の有用性を感じさせることを目指す。毎回、授業内容と関わる小テストを行うことで、確実な知識の習得を図る。	
		英語基礎	基礎的な英語の文の組立て方と、基礎的な語彙・イディオムの用法について復習するとともに、リスニングの基礎となる英語の音の特徴について学び直す。テキストとeラーニング教材を併用して進める。毎回、テキストまたはeラーニング教材の中から指定した部分について小テストを行うことで、確実な英語の基礎知識の習得を目指す。授業に毎回参加するだけでなく、きちんと予習と復習をすることが大切です。	
		IT基礎演習	ハードウェアとソフトウェアの操作方法については、高校までで学んできていることを前提に、本授業では、学習・研究・業務などのためにソフトウェアを活用する方法を学びます。具体的には、ワープロソフトを使って、効率よくレポートやビジネス文書を作成する方法、表計算ソフトを使って、研究や業務で使う多量のデータの集計とグラフの作成を行う方法、プレゼンテーションソフトを使ってプレゼンテーションの効果を高める方法、データベースソフトを使って、データ入力と提示の効率化を図る方法などを学びます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	導入教育科目	キャリアデザイン入門	経済状況による環境の変化は、あらゆる業界・業種においてこれまでの就職＝終身雇用を崩壊させた。今後求められるのは、単に「職業」に就くということではなく、職業を通じてどのような豊かな人生を創造し（キャリアデザイン）、実現するのであり、入学初年次にその重要性に気づき、一層の学習意欲・関心を高めるきっかけ作りを進める。そこで、入学早期よりさまざまな業界から職業人を招いて仕事を通した経験について聴講することで職業観の育成と職業知識を深めることを目的とする。	
	哲学	ヘーゲル自身の人生行路や友人関係を背景として、ヘーゲル哲学の根幹をなす論理である「弁証法」を読み解くならば、実は、人生における自己実現を成し遂げるための基本的な考え方だと理解できるようにすることを通して、青春という疾風怒濤時代を生きている学生諸君たちを導く道標となる授業にしたい。拙著『ヘーゲル——生きてゆく力としての弁証法』（NHK出版）を教科書として用いる講義となる。		
	心理学	心理学の基礎を学ぶ。知覚、記憶、学習など人間行動の基本となる部分を学ぶとともに、様々な心理学の応用分野についても理解を深められるようにする。		
	芸術学	日本の美術で国際的に注目されているのは、いわゆる「わび・さび」だけにとどまらず、むしろ近年では江戸時代等の文化や芸術への関心が高まっている。本科目では、わが国の美術の移り変わりに注目しながら、自らが持ち併せている美意識に重ね合わせることで美の世界を多角的にとらえる力を養う。		
	文学	「子どもの本棚」をテーマに、日本・海外の昔話やファンタジー文学作品を取り上げ、講読・講義を行う。また、文学作品を「読む」「聞く」だけでなく、文学作品について「話す」「書く」という能動的な活動も取り入れ、物語が人の人生や歴史にどう関わってきたのか、また人間の身体や心にどのような影響を与えているのかについて考えていく。		
	教養基礎科目	地域文化論	（概要）アフリカで発生した人類が長い時代を経て新潟に至り、そこで社会や産業を発展させ、地域文化を形成して世界に通じる多くの人材を輩出してきたことを歴史的に分析し、理解する。そして将来、看護・心理・福祉・教育などの分野で様々な課題に出会った時、この授業で学んだ新潟の地域文化を拠り所にして思考・判断・表現して解決に向かうことができるようにする。 （オムニバス方式／全15回） （4 伊藤充／7回） 新潟県人の誕生、政治史で活躍した新潟県人、産業史で活躍した新潟県人、社会・生活史で活躍した新潟県人、出版・放送史で活躍した新潟県人、芸能史で活躍した新潟県人、文化史で活躍した新潟県人 （65 後藤一雄／8回） 教科書に取り上げられた越後佐渡女性、近世越後佐渡の家族構成と女性の位置、近世越後佐渡の産業における女性、近世越後佐渡の女性の旅、近世越後佐渡の災害の中の女性、領主から表彰されて越後佐渡の女性、近世越後佐渡の高齢者介護と女性の役割	オムニバス
	法律学	国家によって制定される法は、人が社会生活を営むための正式なルールである。 国の治め方に関する根本的な仕組みを定めた最高のルールである憲法、人と人とのヨコの関係にまつわるルールを定めた民法、そして労働者のために設けられたルールである労働法など、公法・私法・社会法といったさまざまな法と法律についてバランスよく学び、この国と社会のしくみについて考えたい。 具体的な事例を多く用い、理解しやすい説明をこころがける。講義を通じて、社会における法の存在と役割に関心をもってもらう機会を提供できれば幸いである。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	経済学	現代の経済・社会問題について幅広い教養を身につける。経済学の難解な理論を押し売りするのではなく、歴史的な視点を交えながら具体的な事実に基づいて講義を進める。具体的には、①経済学の考え方を経済の歴史を通して学ぶ、②経済学の基礎的な用語について理解する、③経済統計を見て日本経済の動きを観察する、④日本の財政と金融の仕組みの基本を学ぶ、⑤日本の産業の仕組みについて学ぶ、⑥日本の雇用や社会保障の現状について学ぶ、⑦世界経済の中の日本の地位について知る。	
	経営学	経営学の基礎と全般を学び、企業経営を含め、行政機関、福祉機関、非営利組織、コミュニティビジネスなど様々な分野へ経営の基本的な考え方が応用できることを目指す。	
	社会学	社会学は、社会の構造や機能・制度などを踏まえて、社会における諸関係、たとえば人と人との関係、人と社会との関係、人と諸制度との関係を中心に研究する学問である。本講義では、とりわけ社会学史を踏まえた①社会理論による現代社会の捉え方、②人びとの生活、③人と社会についての関係、④社会問題についての理解を目的としている。「社会（学）」的にものごとを考えるとどのようなことなのか。社会学の古典や事例を通して学習し、学生一人ひとりが「ある事象や現象を考察する力」を養うことが、本講義の最終的な目的である。	
	化学	化学とは「物質」について追及する学問である。様々な物質の構造・性質を原子や分子のレベルで解明したり、化学反応を用いて新しい物質を作り出すことを目的とする。化学の対象はエネルギー、資源、環境などの物質世界のみならず、生命世界にまで及ぶ守備範囲の広い自然科学である。これからの時代においては、一般の人も化学の理解が必要である。本講義では、高校で化学を学んでこなかった人、化学が苦手だった人も興味を持てるように、身近な問題をテーマに基礎のレベルから、講義する。後半の3回は私たちの身体を構成する物質（生体高分子）を取り上げ、体内の情報伝達の仕組み、再生医療につながる遺伝子操作や発生工学に触れ、生命科学への理解を深めてほしい。	
	生物学	1) 科学的な思考・探求方法を説明できる。 2) 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格などの構造と機能に関する基本的事項を説明できる。 3) 生命現象を担う分子に関する基本的事項を説明できる。 4) 生体エネルギー生命活動を支える代謝系に関する基本的事項を説明できる。 5) タンパク質の構造と機能を説明できる。 6) 細胞間と細胞内コミュニケーションの方法と役割に関する基本的事項を説明できる。 7) 生体防御機構を説明できる。 8) 細胞の分裂と死に関する基本的事項を説明できる。 9) 生体の恒常性や感覚器官の構造と機能を説明できる。 10) 生態系と進化、生物多様性の価値を説明できる。	
ITとデータサイエンス科目	ITと社会	近年のAIやロボット、IoT等の情報技術の進歩により、我々の生活は急速に変化している。その技術の有効活用により生活を豊かにできる反面、格差やセキュリティの問題も浮上している。この講義では、変化の激しい情報技術に適応していける能力を身に付けることを目的として、個人情報、著作権といったソーシャルな内容から、コンピュータの動作、インターネットの仕組み、AI、セキュリティといった技術的な内容までを議論する。	
	統計学	日常の暮らしには情報や数値が氾濫している。マスコミが取り上げる「支持率」や「TV視聴率」などのデータは信用できるのか。医療・福祉・心理の各分野では、専門職として、データを分析してエビデンスがあるかどうかの判断が求められる。これには統計的方法や分析手法などの正しい知識が必要である。また、信用できる情報を的確に収集し理解することは社会人としても重要な能力である。本講義では、データと統計的手法について理解することを目標としており、統計学の基礎理論などの基本を中心に学び、各分野の次のレベルの「統計学」関連の授業に進んでほしい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I Tとデータサイエンス科目	IT活用演習 I	近年インターネットおよび情報機器の進化により我々の生活が急速に変化しつつある。中でもクラウドに代表されるグループで情報を共有できるサービスは、大学での学習形態も変化させている。この授業では様々なウェブ上のサービスや情報機器上のソフトウェアを有効に活用してアクティブな学習活動を行う方法を学習する。特にクラウドでは個人情報の漏洩等のセキュリティ上の危険があるので、セキュリティを確保する方法も学習する。	
	IT活用演習 II	現代は生活のあらゆるところに情報技術が浸透しており、その使用方法の習得レベルが大学での学習活動にも影響を及ぼす。そこでこの演習では、情報を効果的・効率的に活用するスキルの修得をめざす。具体的には、データを処理しやすい構造にまとめる方法、データから効率よく情報を取り出す方法、情報を効果的に分かりやすく提示する方法等を学習する。そのために、表計算ソフト、データベースソフト、統計ソフト等を使用する。	
	データ活用演習 I	近年の急激な情報通信および計測技術の進展により、多種多様な大規模・大量データ（ビッグデータ）が集積されるようになり、これを活用した新たな科学的発見や価値創造、そして革新的な新サービスの創出が期待されている。本講義では、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。	
	データ活用演習 II	実際のデータに触れながら、データ解析用のプログラミング言語を利用してデータサイエンスについて学ぶ。データの中から関連性を抽出し現象の解明や要因の分析に役立つ知識を得たり、データに潜む関連性をもとに予測を行う方法について学習し、実際にデータ解析を行うことができ、得られた結果を解釈できることを目標とする。	
ボランティアと地域連携科目	地域連携とボランティア	地域連携とボランティア活動は、活動する本人にとっての自己実現や社会貢献の機会だけではなく、社会の活性化を図るための一つの方法と成りうる。我々が生活する社会のなかには多様な価値観が存在し、活動を行う者の目的は様々であり、活動内容も多岐にわたっている。このような状況を踏まえ、「地域連携とは何か」「ボランティアとは何か」について皆さんとともに考えていきたい。 授業を通して、自ら主体的に地域連携とボランティア活動に参加したり、社会問題に気づき・考えたり、社会の中で地域連携とボランティア活動を広めるために必要なことを考えるきっかけになればよいと考えている。	
	国際ボランティア論	この講義は、様々な地域、環境、状況における多様な国際ボランティアの現状の事例を取り上げながら、国際ボランティアの実像、意義、そして内容についての理解を深めることを第一の目的とする。さらに、NGO・NPOなどの活動のあり方、国連援助機関の課題などにも触れながら、社会現象としての国際ボランティア活動をより幅広くとらえて学習する。	
	ボランティア実習 I	ボランティア活動に向けての事前準備、活動への参加、活動後の振り返り、体験の共有化等の過程を通して、ボランティアとしての倫理・役割・課題等の理解を図るとともに、現代社会におけるボランティアの内在的な理解につなげることを目的とする。	集中・共同
	ボランティア実習 II	ボランティア活動の企画、募集、実施（運営）、反省（振り返り）等の一連の活動を通じて、ボランティアに関する内在的な理解を図るとともに、コーディネータ力、企画・立案力の養成を図る。	集中・共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ボランティヤ科目 地域連携と	地域連携実習Ⅰ	産業界等で求められる重要な人材ニーズである「問題発見・解決力」「提案力」について、地方都市商店街での活性化事業推進を通し、与えられ、指示された課題への対応ではなく、学生自らが関わり、考え、変えていくことにより養う。具体的には、コミュニケーション力の養成と併せ、幅広い年代層との関わりを持つ地元商店街でのフィールドワークの実践から「課題発見」「課題抽出」「提案」「解決」のプロセスを学生主導で実施する。 専門性の異なる看護学部と福祉心理学部の学生が協働で取り組むテーマ設定とグループ分けを行うことで、学生相互の異なる視点からのアプローチを確認し合い、就業後も多職種連携の必要があることを確認する。	集中
	地域連携実習Ⅱ	地域連携実習Ⅰのレベルアップと併せ、「協調性」「積極性」「広い視野」というリーダーシップとして欠かせない能力養成を進める。さまざまなグループ活動を展開する際に必要となるリーダーとして活躍できる能力と、リーダーを支えることが必要な場面においては、サブリーダーとしての役割を自身の取り組みとして認識し、行動できる人材能力を培うことで、看護・福祉領域における専門職ならびに公共団体・企業でも活躍できる人材を育成する。	集中
全学共通科目 複合・学際科目	人の暮らしと日本国憲法	本講義は、日本国憲法に関する基礎的な学識の修得を目指すものである。講義では、憲法の意義、日本国憲法の成立に至る歴史的経緯、日本国憲法の理念・基本構造・全体像を解説した後、具体的な憲法訴訟を紹介し、実生活における憲法の意義を議論する。講義後半では、統治のしくみを取り上げる。具体的には、権力分立のあり方を説明したうえで、国会、内閣、裁判所、違憲審査制、財政、地方自治、憲法改正等に関する諸問題を論じる。	
	人の生と死	(概要) この講義では、多面的な人の生と死を医学の立場、宗教の立場、看護の立場そして社会の中での死について共に考える。 (オムニバス方式/全15回) (12 石田道雄/4回) 生と死の諸問題を医学の立場から論ずる。 (11 池田かよ子/3回) 生命誕生の神秘、いのちの普遍性について考える。 (25 森扶由彦/4回) 生と死を医学・福祉・宗教の視点から考える。 (15 佐々木祐子/4回) 人々の死を看取る看護師の立場で、いのちの向き合い方を考える。	オムニバス
	看護・福祉史	(概要) 看護・福祉活動の歴史を通じて、看護、福祉活動の創設と沿革を学ぶ。また、日本と諸外国の保健医療にかかわる看護活動、ならびに他の対人サービスの今日的状況と課題を学ぶ。 (オムニバス方式全/全15回) (16 菅原真優美/6回) 看護の原点とその発達過程について、社会的・文化的・政治的な歴史的経緯と関連づけて理解し、未来に向けて看護を探究できるように学修する。 (10 渡邊典子/1回) 人類の始まりから脈々と続く、人が産み・人が生まれる歴史、および人びとの生命誕生に助産師が関わってきた歴史を学修する。 (21 平川毅彦/8回) 社会福祉の原点と変遷を学び、その根底にある理念を理解するとともに、社会福祉の理念を基にした実践について考察できる。	オムニバス
	人間発達学	各々のライフステージについて、その心理社会的発達課題を整理しながら学ぶ。その中で、人間の心理社会的発達の過程が身体的発達(あるいは加齢・老化)の過程と密接に関連しながら進行することを理解し、同時に社会的経験・文化的な要因も深く関与していることを総合的に理解する。各発達段階の特徴と、生じがちな適応上の課題を理解するとともに、医療モデルと発達モデルを対比させながら、発達支援のあり方について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	保健医療社会学	本講義は、病氣と医療の諸問題を社会・文化の文脈の中で捉え、生物医学的なアプローチでは理解が困難なさまざまな事項について、社会的に考察することを目的としています。たとえばどのような刷新的な治療法であっても、生物医学的な観点からの検討だけで採用されるわけではありません。その採用については、生命倫理的な側面から検討されたり、医療者と患者のインフォームドコンセントによって決定がなされます。本講義は、看護・福祉を目指す学生にとっては、より幅の広い視点や思考の枠組みを提供する内容にデザインされています。	
	現代社会と諸問題Ⅰ	現代社会における性別を性別を生物学的なもの（セックス）と社会・文化的なもの（ジェンダー）という観点から、さまざまな社会の現象をとりあげ、それを通して、今後「ひと」として社会で生きていく上での助けとなる知識を学ぶことを目指す。「ジェンダー」は社会的な女性と男性という区別により、役割や態度、正確、身のふり方等を決めつけ、画一的に分ける仕組みのことである。一人一人が自分の個性を十分に発揮して生きるためには、今まで「当たり前」だと考えてきた意識や習慣、社会の仕組みについて学び、新たなライフチャンスの可能性について考える必要がある。	
	現代社会と諸問題Ⅱ	（概要）社会的孤立やエスニシティなどの現代の日本の社会における様々な社会諸問題について、幅広い視点で理解、分析するとともに、解決策としての取り組みを学ぶ。また、国際的な観点から日本社会が直面している共通の問題について、理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （29 海老田大五朗／12回） 下記授業計画のうち、身近な社会問題①～③を除く12回を担当する。 社会問題とデザインなどを中心に講義する。 （52 秋本光陽／3回） 下記授業計画のうち、身近な社会問題①～③の3回を担当する。 「児童虐待と「子殺し」事件の背景」「非行・少年犯罪と少年司法」「人種差別にもとづく暴力とBLM（ブラックライヴズマター）運動」について講義する。	オムニバス
	新潟学	新潟市は北東アジアとつながる空と海の拠点であって、学術・文化・産業の情報発信基地としての可能性が期待されています。このような開放都市新潟は古代より「みなと」とともに発展したという経緯があります。「みなとまち」という観点から新潟の歴史・社会を捉えることの重要性があるわけです。本科目は「みなとまち」という視点からこれまでの新潟の歴史を振り返り、今日の課題を紹介し、新潟への理解、課題探求能力の育成を図ります。	
	外国語と国際交流科目	外国語を学ぶ意義と必要性について考え直し、何のために外国語を学ぶのか明らかにするとともに、外国語学習ストラテジーについて演習形式で学ぶ。現在の語学力（外国語を使って何ができるか）を確認した上で、大学4年間の学習目標と計画を立て、本学の多様な学習資料（多読図書とCALL教材）や、インターネット上の学習材を使った学習方法を習得し、自ら学ぶ姿勢を身につける。	共同(一部)
	英会話Ⅰ	英語を話す力と聞く力を高めるため、ネイティブスピーカーのもので、日常生活のトピックを中心に学びます。この科目は入学時に実施されるテストによって、能力別クラス編成となります。英会話Ⅰと英会話Ⅱは履修の順序であり、それ自体がレベルを示すものではありません。	
	英会話Ⅱ	英語を話す力と聞く力を高めるため、中級レベルの教材を用いて、ネイティブスピーカーのもので、日常生活のトピックを中心に学びます。この科目は「英会話Ⅰ」「英会話Ⅲ」とともに、能力別クラス編成です。受講には「英会話Ⅰ」の単位修得、あるいはTOEIC470以上（または英検準2級合格）が必要です。TOEIC600以上（または英検2級合格）の者は、この科目の単位が認定されます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語と国際交流科目	英語情報収集 I	英語を使って情報を収集する基礎力を身につけます。必要な情報を効率よく収集するリーディングとリスニングの基礎を学び、英語学習者（非英語母国語話者）向けに書かれた新聞やニュース番組、インターネット上コンテンツからの情報を収集するトレーニングを行います。受講には「外国語学習ストラテジー」と「英会話 I」の単位修得、あるいはTOEIC470以上（または英検準2級合格）が必要です。TOEIC600以上（または英検2級合格）の者は、この科目の単位が認定されます。	
	英語情報収集 II	英語を使って情報を収集し、それを整理・要約する力を身につけます。英語で必要な情報を効率よく収集するだけでなく、収集した情報を整理・要約して、自分の知識として使えるようにすることを目的に、多様な素材を使ってリーディングとリスニングのトレーニングを行います。受講には「英語情報収集 I」の単位修得、あるいはTOEIC600以上（または英検2級合格）が必要です。TOEIC730以上（または英検準1級合格）の者は、この科目の単位が認定されます。	
	英語情報発信 I	英語を使って情報を発信する基礎力を身につけます。具体的に想定される相手に対して、簡単な英語を使って自分が伝えたい情報を発信することを、ライティングとスピーキングの演習を通して身につけます。受講には「外国語学習ストラテジー」と「英会話 I」の単位修得、あるいはTOEIC470以上（または英検準2級合格）が必要です。TOEIC600以上（または英検2級合格）の者は、この科目の単位が認定されます。	
	英語情報発信 II	英語を使って情報を発信し、情報交換・国際交流する力を身につける。具体的に想定される相手に対して、簡単な英語を使って自分が伝えたい情報を発信するだけでなく、それに対する反応を的確にとらえ、情報交換・国際交流することを、ライティングとスピーキングの演習を通して身につけます。受講には「英語情報発信 I」の単位修得、あるいはTOEIC600以上（または英検2級合格）が必要です。TOEIC730以上（または英検準1級合格）の者は、この科目の単位が認定されます。	
	目的別英語 I	各学科・コースの専門性と想定されるキャリアプランに基づき、看護、福祉、心理、保育、ビジネスそれぞれ特定の目的のために必要とされる英語を学びます。看護、福祉、心理、保育、ビジネスの各場面で必要とされる語彙・表現の習得を目指します。目的別英語 I と目的別英語 II には連続性がありますので、同じ目的のものを履修するようにしてください。目的別英語 I の履修には、英会話 I・II、英語情報収集 I、英語情報発信 I の単位を取得していることが望ましいです。	
	目的別英語 II	各学科・コースの専門性と想定されるキャリアプランに基づき、看護、福祉、心理、保育、ビジネスそれぞれ特定の目的のために必要とされる英語を学びます。看護、福祉、心理、保育、ビジネスの各場面で必要とされる語彙・表現の習得を目指します。目的別英語 I と目的別英語 II には連続性がありますので、同じ目的のものを履修するようにしてください。目的別英語 II の履修には、同じ目的の目的別英語 I の単位を取得していることが望ましいです。	
	TOEIC・TOEFL演習 I	英語でのコミュニケーション力を判定するための世界共通のテスト TOEIC (Test of English for International Communication) と、米国やカナダへの留学を希望する外国人を対象とした、英語の学力テスト。TOEFL (Test of English as a Foreign Language) の概要を学び、各自の目的にあわせて、いずれかのテスト受験準備のために、演習形式で英語の4技能を伸ばします。受講にはTOEICまたはTOEIC換算点で470点以上を取得していることが必要です。	
	TOEIC・TOEFL演習 II	英語でのコミュニケーション力を判定するための世界共通のテスト TOEIC (Test of English for International Communication) と、米国やカナダへの留学を希望する外国人を対象とした、英語の学力テスト。TOEFL (Test of English as a Foreign Language) いずれかの模擬試験に取り組み、実際の試験の準備を行います。受講にはTOEIC・TOEFL演習 I の単位取得が必要です。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語と国際交流科目	初修第二外国語入門	英語以外の外国語（ドイツ語、中国語、韓国語のいずれか1つ）を初めて学ぶ人を対象に、基礎から始めて、簡単な挨拶と日常会話ができるくらいの語学力を身につけます。単に新しい外国語の習得だけでなく、その言葉が使われている地域のくらしと文化を理解することも目指します。「英語基礎」を履修中の者は受講できません。	
	初修第二外国語基礎	初修第二外国語入門を終えた人を対象に、第二外国語（ドイツ語、中国語、韓国語のいずれか1つ）の「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」基礎力を身につけるとともに、その言葉が使われている地域のくらしと文化を学びます。受講には同じ外国語の「初修第二外国語入門」の単位取得が必要です。	
	外国語としての日本語Ⅰ	この授業では、外国語として日本語を学んでいる日本語学習者（主に中国人大学生を想定）との交流において、日本語を母語とする者が気をつけるべきことを学び、よりスムーズかつ深い交流ができるようになることを目標とします。具体的には、日本語での会話において気をつけるべき点、また言語以外の面での注意点（例えば、パーソナルスペースの違いなど）などについて学んでもらいます。	集中
	外国語としての日本語Ⅱ	出入国管理法が改正され、今後は労働者として中長期で日本に滞在する外国籍の方が増えることが予想されます。それに伴い、生活の場や職場で、あまり日本語が話せない人と接する機会が増えていくでしょう。この授業では、そのような人との交流において、日本語を母語とする者が気をつけることを学び、よりスムーズかつ深い交流ができるようになることを目標とします。具体的には、日本語での会話において気をつけるべき点、専門的な内容や複雑な内容をわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか、などについて、実際に会話例を考えてもらいながら学んでもらいます。	集中
	海外研修Ⅰ	海外の協力校を拠点として、地域の教育施設、社会施設等を見学し見聞を深めるとともに、その地域に滞在することで異文化理解を深め、国際的な視野を養い、外国語によるコミュニケーション力を高めます。学生は複数のプログラムの中から、選択して参加し、その研修の時間数に応じて海外研修の単位が認定されます。事前事後指導を含め45時間以上で海外研修ⅠまたはⅡ、90時間以上で海外研修Ⅲ、180時間以上でⅣの単位が認定されます。また、個人で行う在学中の留学について事前に担当教員に相談し、同等の内容と時間を満たしていることが確認された場合も、単位が認定されます。	共同・集中
	海外研修Ⅱ	海外の協力校を拠点として、地域の教育施設、社会施設等を見学し見聞を深めるとともに、その地域に滞在することで異文化理解を深め、国際的な視野を養い、外国語によるコミュニケーション力を高めます。学生は複数のプログラムの中から、選択して参加し、その研修の時間数に応じて海外研修の単位が認定されます。事前事後指導を含め45時間以上で海外研修ⅠまたはⅡ、90時間以上で海外研修Ⅲ、180時間以上でⅣの単位が認定されます。また、個人で行う在学中の留学について事前に担当教員に相談し、同等の内容と時間を満たしていることが確認された場合も、単位が認定されます。	共同・集中
	海外研修Ⅲ	海外の協力校を拠点として、地域の教育施設、社会施設等を見学し見聞を深めるとともに、その地域に滞在することで異文化理解を深め、国際的な視野を養い、外国語によるコミュニケーション力を高めます。学生は複数のプログラムの中から、選択して参加し、その研修の時間数に応じて海外研修の単位が認定されます。事前事後指導を含め45時間以上で海外研修ⅠまたはⅡ、90時間以上で海外研修Ⅲ、180時間以上でⅣの単位が認定されます。また、個人で行う在学中の留学について事前に担当教員に相談し、同等の内容と時間を満たしていることが確認された場合も、単位が認定されます。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語と国際交流科目	海外研修Ⅳ	海外の協力校を拠点として、地域の教育施設、社会施設等を見学し見聞を深めるとともに、その地域に滞在することで異文化理解を深め、国際的な視野を養い、外国語によるコミュニケーション力を高めます。学生は複数のプログラムの中から、選択して参加し、その研修の時間数に応じて海外研修の単位が認定されます。事前事後指導を含め45時間以上で海外研修ⅠまたはⅡ、90時間以上で海外研修Ⅲ、180時間以上でⅣの単位が認定されます。また、個人で行う在学中の留学について事前に担当教員に相談し、同等の内容と時間を満たしていることが確認された場合も、単位が認定されます。	集中
	国際交流Ⅰ	この授業ではオンラインで海外の学生と交流することを通して、世界の多様な文化に対する理解と自らの文化に対する理解を促進し、多様性を受け入れ国際的な視点で物事をとらえる能力を育成する。授業では実際に海外の提携校や協力校の学生とテレビ会議システムで相手の顔を見ながら自己紹介や自校紹介、生活する地域の紹介、大学で学ぶ専門の話や意見交換を行って交流を深める。その際言語は、英語を使用する場合と、双方の言語を理解する人や翻訳ソフトを介して学生の母国語を使用する場合がある。実際の交流以外の、交流相手の国や大学について調べること、発表資料を制作すること、振り返りと反省をすることも大切な授業の要素である。	集中
	国際交流Ⅱ	海外の提携校や協力校からの訪問を受け入れることによって行われる国際交流を単位化するものである。交流に使用する言語は学生が学ぶ外国語に限らず、海外の教育機関で日本語を学ぶ学生と日本語による交流も含まれる。	集中
全学共通科目 健康とスポーツ科目	健康・スポーツ科学	スポーツと生活の関わりを理解し、健康で豊かなライフスタイルを身につけることを目的に、スポーツを安全に楽しむための知識と、スポーツ技能修得に必要な基礎理論、ヘルスプロモーション理念に基づいた健康生活について講ずる。特に、運動実践の重要性を理解し自分の言葉で説明できることを重点目標とする。	
	スポーツⅠ	運動は健康で生き生きと生きていくために欠かせない大切な要素のひとつである。運動の生活化が求められているが、生涯を通してスポーツに親しみ実践していけるかどうかは青年期の取組み如何による。この授業ではその第一歩として、基礎的な体力づくりのためのトレーニングの方法を学び、自ら運動する習慣を身につけることを目標とする。	
	スポーツⅡ	運動は健康で生き生きと生きていくために欠かせない大切な要素のひとつである。運動の生活化が求められているが、生涯を通してスポーツに親しみ実践していけるかどうかは青年期の取組み如何による。この授業ではその第一歩として、基礎的な体力づくりのためのトレーニングの方法を学び、又いくつかの運動種目を通して各自の運動実践能力を高めていきたい。	
	スポーツⅢ	飽食と運動不足は、現代病ともいべき生活習慣病をもたらしている。各種のレクリエーションスポーツを体験し、運動による身体の変化について思考する。自分自身の身体を客観的に観察し、より健康な身体づくりを目指す。学習の目標は以下の3点である。①自主的積極的な活動により、生涯スポーツへの意識を高める。②仲間との協同・競争を通して、より高いパフォーマンスを目指す。③運動と身体機能の発達、各種のトレーニング方法について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 学部共通科目 福祉心理子ども学部専門基礎科目	社会福祉原論Ⅰ	社会福祉原論Ⅰでは現代社会における「社会福祉」の理念と、広・狭義の社会福祉における意義、社会福祉形成の歴史、各種のサービス体系とその裏付となる法律のシステム、実施体制と行財政対応並びに公的セクターと私的セクターとのかかわり、従事者と諸外国の福祉制度の実態などにふれるとともに、社会福祉関連領域や利用者保護制度に関する理解を深める。また、多様な事例検討と課題作成を通じて、現代社会を構成する市民のひとりとして社会福祉の意義と課題について理解を深める。	
	社会福祉原論Ⅱ	社会福祉原論Ⅱでは同原論Ⅰで検討した内容を踏まえ、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉の原理をめぐる理論と哲学、ニーズと資源、福祉政策の課題を理解し、複雑化する現代社会に対応した福祉政策遂行における政府、市場、家族、個人それぞれの役割を理解する。また、福祉政策と関連施策の関係、相談援助活動と福祉政策との関係を学ぶ。さらに、ビデオ教材等を用いた事例検討を踏まえ、一人ひとりにとっての社会福祉の意義を明らかにする。	
	社会福祉特別講義	国家試験受験の基礎力強化を講義形式で行い、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験の受験学習に結びつける。	共同
	社会福祉特別演習	社会福祉士として現場での実践に必要な知識・技術・倫理等について総体的に学び、演習形式でそれを確かなものとするを目的とする。社会福祉士国家試験に出題される科目について、受験準備のための学習方法指導、模擬試験、確認テスト、グループ学習などを行い、反復継続学習により国家試験合格のための基礎力を定着させる。受講学生は該当する内容についての事前学習を行い、授業時にはその達成度を確認し、学習が不十分な部分を各自補うものとする。	共同
	社会調査論	社会調査論では、社会福祉援助技術方法の一領域としての社会調査を中心として、その意義や方法等を理解する。そのために、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。さらに量的及び質的それぞれのデータ特性を踏まえ、データ収集及び分析方法から報告書作成・報告といった一連の作業を通じて社会調査の意義を理解する。またコンピュータを活用したデータ集計及びプレゼンテーションの方法についても学ぶ。	
	家族福祉論	家族福祉とは「家族成員および家族システム全体のウェルビーイングという理念型を実現していくための目的理念である」ととらえた上で、家族の定義やその機能について理解し、「家族」と「社会福祉」の諸領域を交錯させながら、家族という特殊な社会集団の現実を多面的に理解することを目指す。また、個人化、多様化という現代家族のありようにも対応した家族福祉の方法や施策について学ぶとともに、家族福祉の実現を図るための施策のあり方について考える。	
	医療福祉論	保健医療サービス分野での相談援助において必要となる次の5点を教授する。 1. 医療保険制度 2. 診療報酬制度 3. 保健医療サービスの概要 4. 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際 5. 保健医療サービス関係者との連携と実際 また、上記5点の学びと医療ソーシャルワーカー業務指針に基づき、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の援助実践における価値と倫理の理解を深め、保健医療サービス分野におけるソーシャルワーカーの使命について学ぶ。	
人体の構造と機能及び疾病	福祉・心理の専門家として活動する上で、人体の構造・臓器の機能・おもな疾患のメカニズムや治療法を知っておくことは、人間そのものに対する理解を深めるためにも極めて重要である。講義では、これらの項目について教授し、クライアントのみならず医療従事者とも円滑なコミュニケーションをとれるようになることを目標にする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 学部共通科目 福祉心理子ども学部専門基礎科目	精神疾患とその治療	①主な精神疾患についてその成因、症状、診断と精神疾患の治療、支援について理解する。 ②主な精神疾患について精神科病院等における専門治療の内容、特性を理解する。	
	精神保健学Ⅰ	(概要) 精神の健康についての基本的考え方と精神保健の動向について理解する。精神保健学Ⅰでは、主に家族に関連する精神保健の課題と支援・精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ・精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携・諸外国の精神保健活動の現状及び対策について理解する。 (オムニバス方式/全15回) (23 丸山公男/5回) 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要について学修する。小児の精神機能と精神保健について学修する。 (33 花澤佳代/5回) 精神保健の視点から見た、家族の課題とアプローチ、学校教育の課題とアプローチについて学修する。ライフサイクルと精神の健康について学修する。 (31 関谷昭吉/5回) 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別の課題等について学修する。病気療養や介護をめぐる精神保健や家庭内の問題を相談する機関、保健所等の精神保健福祉士の役割について学修する。	オムニバス
	精神保健学Ⅱ	(概要) 精神保健学Ⅰを踏まえ、精神保健の視点から勤労者の課題とアプローチ・現代社会の課題とアプローチ・精神保健に関する発生予防と対策、及び地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。 (オムニバス方式/全15回) (23 丸山公男/5回) ニート、過労、自殺などの現代の精神保健問題および、認知症、うつ病などの中高年齢者の課題について学修する。 (31 関谷昭吉/5回) 被災者、犯罪被害者などへの支援、アルコール、薬物、ギャンブル依存などへの支援、行政、諸外国の精神保健について学修する。 (33 花澤佳代/5回) ひきこもり、精神保健の課題および、精神保健福祉対策について学修する。	オムニバス
	コミュニティビジネス概論Ⅰ	地域課題の解決及び地域の多様なニーズに柔軟に対応する手法として、地域資源の利活用を活動基盤とするコミュニティビジネスが求められている。本講義では、ソーシャルビジネス概念やSDGs(持続可能な開発目標)について理解を深めるとともに、持続可能な地域づくりにおけるコミュニティビジネスの意義と社会的役割、課題や今後の展開について学ぶ。	
	コミュニティビジネス概論Ⅱ	本講義はコミュニティビジネスの基礎から応用まで講義とワークショップを中心に学ぶプログラムになります。前半では講義でコミュニティビジネスの基本を学びつつ、ワークショップでコミュニティビジネス事業を実施するための組織づくりを体験します。	
	心理学概論	本講義は、心理学の基礎的知識の理解を目的とする。心理学というと臨床心理学がイメージされるかもしれないが、臨床心理学は心理学の応用分野の一つであり、本来的には心理学とは人間の心や行動を“科学的方法”により研究する学問である。よって、本講義は“科学的方法”という視点から、心理学を学んでいき、理解することを目的とする。“科学的方法”というと固いイメージがあるかもしれないが、心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組みや働きに触れ、各回でのテーマに合わせたさまざまな実験や調査について紹介していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 学部共通科目 福祉心理子ども学部専門基礎科目	家族心理学概説	講義では、現代家族及びその諸問題をシステム論の視点で読み解いていく。本講義の目的は四つある。第一に家族という対人関係システムに関する基礎知識を獲得すること、第二に家族の直面する諸問題について学ぶこと、第三に家族支援の際の理論的参照枠として、システム論とそれに立脚した心理的支援法について学ぶこと、最後に家族システム論に基づいて、現代家族の問題の解決方法を検討していくこと、である。これらの四つの点を中心に講義を展開し、成績評価を行う。	
	障害者・障害児心理学	知的障害、身体障害、精神障害などさまざまな障害がある。これらの障害を抱える人々やその家族らは実際にどのような状況におかれ、いかなる心理社会的な課題を抱えているのだろうか？ 各々の障害の概念、定義を理解し、障害の概念や障害児・者の心理を理解する視点を身につける。加えて障害特性によって異なる心理的特性や心理的問題について事例を通して理解し、それらに応じた援助のあり方について学ぶことを目標とする。	
	児童臨床心理学	臨床心理学に関する基礎的理論、方法論を理解することを目指す。また、それぞれの年代における発達の特徴を学んだ上で、子どもの心のつまづきの表現や心理臨床的課題について、事例を紹介することで理解を深める。また、その支援方法である心理療法のいくつかを学ぶ。	
	発達心理学Ⅰ	子どもの心身の発達や行動の変容に関する心理学的知識を整理しながら身につける。子どもが周囲の人々や社会・文化と能動的に関わりながら成長していく様子について具体的材料をもとに理解する。また、保護者や保育者も各々の発達課題に取り組む一人の人間であることを理解し、これらを踏まえた上で、健全な発達を支える実践のあり方について心理学的視点から考える。	
	発達心理学Ⅱ	発達心理学Ⅱでは主に青年期を扱うが、少し範囲を広げ、思春期から青年期、その先の成人期までを扱う。それぞれの年代の中での認知・社会性・人格の発達の過程について概説するとともに、各年代で顕著となる心理的課題や問題行動を取り上げ、その実態やそれに対する支援についても考えていく。また、主に青年期を扱うため、本講義の目標には発達心理学的視点から、受講生の自己理解に役立つ知見を提供することも含まれている。	
	発達心理学Ⅲ	人間の生涯発達過程とそれぞれの発達段階の課題を概観した上で、高齢となるにつれて心身の状態や行動がどのように変化してゆくかを心理学的視点から整理し、理解する。高齢期に生じてくる生活上・健康上の課題と、パーソナリティの発達・円熟にむけた生涯発達課題との関連について考え、高齢者への心理学的支援の在り方について検討する。また加齢のプロセスに影響を与える様々な社会文化的要因を取り上げ、それらの関連について議論するとともに、人生における高齢期の位置づけを探る。	
	教育・学校心理学	幼児期から青年期までの発達や学習の過程を理解し、学びを促すための環境構成、指導法等について理解する。「発達」と「学習」の概念を比較対象させて理解し、その両方の視点を持ちつつ意図的な働きかけを行うことの重要性を学ぶ。子どもの個人差を考慮に入れた援助・指導の理論と具体的方法について整理して理解し、そのプロセスを評価するための基本的枠組みを身につける。	
	教師論	教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障を含む）、チーム学校としての運営の重要性について教授すると共に、教職の職業的特質を踏まえた進路選択に資する各種機会の情報提供を行う。	
	教育制度論	現在の学校教育に関する制度的事項や経営的事項について基礎的な知識を身に付けさせるとともに、学校教育の課題である学校・保護者・地域が連携・協働した取り組みや、学校安全の取り組みに関して実践例に即して学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 学部共通科目 就業力育成科目	キャリアデザインⅠ	「マナー」は、社会生活を営むためのルールや規範であり、人間関係を円滑に送るために必要不可欠であるが、マナーの基本は相手を大切に思う「心」であり、「ケア」をベースにした「青陵マインド」に通じている。社会人として必要な常識やマナーを、青陵マインドをベースにした「考えること」を通じて身につけ、キャリア形成を遂行できる基礎的能力の育成と同時に、社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	キャリアデザインⅡ	高度情報化社会の進展は、社会が求める人材や働き方を多様化させた。このような状況下では、「働くこと」「仕事をする事」の意味を考え、「学生時代にすべきこと」「意識すること」が何かを多面的に捉えることが必要であり、目的意識を持って大学生活を送る姿勢を身につけ自己を生かすキャリア形成を遂行できる能力を育成する。具体的な職業選択を考える上で必要な基礎知識を身につけた上で、働くことについて自分の価値観にあった仕事を選択する姿勢を養う。	
	キャリアデザインⅢ	雇用する側で求める社会人としての基礎力理解と併せ、働く人の多様化(ダイバーシティ)、それに伴う働き方の現状や課題を整理することで、業界・業種、施設・企業などの研究を、グループ別少人数によるディスカッション、文献講読、問題意識の明確化などを通じ効率よく行い、キャリアデザインについての理解を深める。その過程で、「青陵マインドの実践」が不可欠であり、どのような職業選択を行った場合にもベースとなる考え方であること理解し、身につける。	
	現代社会とメディアⅠ	コミュニケーションとは、メディアとは、ジャーナリズムとは何なのか。情報化社会と言われて久しいが、大学生世代の情報欠落・無関心は危機的な様相を呈している。社会がどう動いているのか、自分は社会の中にどう位置づけられるのかなど、間もなく社会人となるべき自分自身への訓練を怠っているケースが目につく。この授業では人と情報を取り次ぐメディア、特に古典的メディアといわれる新聞に焦点を当て、新聞とは何なのか、なぜ新聞は存在しているのかなど、日ごろまったく考えもしないであろう次元から「社会常識」を身につけることを目指す。また、日々の世界の動きを「熱い」うちに教材として取り入れるので、「情報偏食」の人でも社会の姿を知る訓練となり、社会人としての常識の涵養を促す。	
	現代社会とメディアⅡ	現代社会は情報化社会といわれる。しかし、情報をやりとりし、使いこなすべき人間は洪水のような情報におぼれ、次第に個の殻の中へ閉じこもる傾向もみえる。本来、人間社会を円滑にするための道具に過ぎない情報技術(コミュニケーション技術)が、いつの間にか目的化・肥大化し、その陰で太古から人間が持っていた優れたコミュニケーション力にかげりが見えている。インターネットを基盤とするさまざまな情報ツールが爆発的に普及するなか、何でもできるという過信が逆にすべてに無知・無力という悲惨な状態を招いていないか。マスゴミという蔑称が当たり前のように口にされるが、実は多くの人はあまりに偏った情報に踊らされコミュニケーション喪失状態に陥っているのではないか。本講座は前期の「情報メディア論」を踏まえつつ、リベラルアーツとしてのコミュニケーション技術理解を深める。	
	就業力育成演習Ⅰ	社会人になる前に確実に身につけておくべき文章理解ならびに社会科学分野の知識を、演習形式で学び直す。特に一般企業や公務員志望の学生にとっては、就職試験対策となる。	
	就業力育成演習Ⅱ	社会人になる前に確実に身につけておくべき人文科学ならびに自然科学の知識を、演習形式で学び直す。特に一般企業や公務員志望の学生にとっては、就職試験対策となる。	
	インターンシップ	学内での講義と演習だけではなく、企業・団体での就業体験により、一層の学習意欲・関心を高め、産業界等で求められる社会人としての教養・資質を養う。具体的には、営業や事務など、一般的アルバイトとは違ったオフィスワーク等の体験と、企業人としての姿勢を学び、理論と実践を結びつけ学業へのフィードバックを目的とし、その後の研究・勉学、学生生活の改善、目的意識の明確化などに役立て、自身のキャリアデザインを見つめ直す契機とする。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 学 部 共 通 科 目 就 業 力 育 成 科 目	数的推理・判断推理 I	<p>病院・施設・企業・公務員等あらゆる進路選択の場面で、数的推理・判断推理への対応が要求される。この講座は、基礎的な数的推理・判断推理の問題に取り組むことを通して、就職試験における筆記試験の解答力を高めることを目的とし、同時に、これらの科目により採用側が要求する論理的思考力と作業スピードを養う。</p> <p>数的推理・判断推理は地方公務員・国家公務員の採用試験や、SPI 3・SCOAなど民間企業の就職試験など多くの就職試験において出題数の最も多い最重要科目といえる。まずは、問題のパターンに慣れ、正確に解くことを目指したい。授業は集中で演習形式により実施する。基本例題の解説と演習問題によるトレーニングを数的推理 6 回、判断推理 6 回、空間把握 2 回、資料解釈 1 回を目安に行う。</p> <p>授業の進み具合にもよるが合間を使って、社会経験の豊富な講師からシュウカツやキャリア形成に関するアドバイスが行われる場合がある。</p>	
	数的推理・判断推理 II	<p>数的推理・判断推理 I から発展させ、数多くの問題を解くことにより、求められる論理的思考力・作業スピードの正確さ及び速さを養う。</p> <p>民間・公務員を問わず就職試験における筆記試験全般において対応できる力を身に付けることを目指す。特に地方公務員や国家公務員の採用試験を受験する学生は、これから本格的な公務員試験対策を進める上での足掛かりとなる。</p> <p>発展例題の解説と演習問題によるトレーニングを数的推理を 5 回、判断推理を 5 回、空間把握を 3 回、資料解釈を 2 回行う。</p> <p>授業の進み具合により、社会経験の豊富な講師からシュウカツやキャリア形成に関するアドバイスが行われる場合がある。</p>	
	ビジネスアプリケーション I	<p>近年の ICT (Information and Communication Technology) 環境を巡る変化は著しく、学生に求められる ICT スキルも以前の比ではない。</p> <p>ICT 演習では、OS やオフィスソフトなどの基礎的な学習であったが、本演習においてはワードプロセッサソフトウェアの機能をより深く理解し、幅広い情報活用能力を身につける。</p> <p>社会人になったときに効果的に活用できる知識を習得するため、実践的スキルや幅広い知識を認定する世界共通資格 (Microsoft Office Specialist) 取得などを旨とする。</p>	
	ビジネスアプリケーション II	<p>近年の ICT (Information and Communication Technology) 環境を巡る変化は著しく、学生に求められる ICT スキルも以前の比ではない。</p> <p>ICT 演習では、OS やオフィスソフトなどの基礎的な学習であったが、本演習においては表計算ソフトウェアの機能をより深く理解し、幅広い情報活用能力を身につける。</p> <p>社会人になったときに効果的に活用できる知識を習得するため、実践的スキルや幅広い知識を認定する世界共通資格 (Microsoft Office Specialist) 取得などを旨とする。</p>	
	ビジネスアプリケーション III	<p>近年の ICT (Information and Communication Technology) 環境を巡る変化は著しく、学生に求められる ICT スキルも以前の比ではない。</p> <p>ICT 演習では、OS やオフィスソフトなどの基礎的な学習であったが、本演習においてはプレゼンテーションソフトウェアの機能をより深く理解し、幅広い情報活用能力を身につける。</p> <p>社会人になったときに効果的に活用できる知識を習得するため、実践的スキルや幅広い知識を認定する世界共通資格 (Microsoft Office Specialist) 取得などを旨とする。</p>	
ビジネスアプリケーション IV	<p>近年の ICT (Information and Communication Technology) 環境を巡る変化は著しく、学生に求められる ICT スキルも以前の比ではない。</p> <p>ICT 演習では、OS やオフィスソフトなどの基礎的な学習であったが、本演習においてはデータベースソフトウェアの機能をより深く理解し、幅広い情報活用能力を獲得することを学ぶ。</p> <p>社会人になったときに身につけておきたいスキルを身につけるため実践的スキルや幅広い知識を認定する世界共通資格 (Microsoft Office Specialist) 取得などを旨とする。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	就業力育成科目 学部共通科目	ITストラテジー	情報端末技術や情報ネットワーク技術等の進歩により、情報システムのあり方が日々変化しています。この授業では情報システムを構築するための情報戦略及び情報システムに関する知識の修得を目的とします。本授業では「ITパスポート試験（シラバス4.0）におけるストラテジ系分野に準拠」し、ITパスポートで要求されるITリテラシーは、情報系企業だけでなく非IT系企業でも要求されており、就業力の観点からも重要な能力となっています。本講義の他に、「ITマネジメント」、「ITテクノロジー」を並行して、あるいは順次履修していくことで、最終的にITパスポート試験の出題範囲を全てカバーし、ITパスポート試験の受験対策をすることができます。
		ITマネジメント	情報端末技術や情報ネットワーク技術等の進歩により、情報システムのあり方が日々変化しています。この授業ではシステム開発やソフトウェア開発をする上でのプロジェクトマネジメント、サービスマネジメントに関する知識の修得を目的とします。本授業では「ITパスポート試験（シラバス4.0）におけるストラテジ系分野に準拠」し、ITパスポートで要求されるITリテラシーは、情報系企業だけでなく非IT系企業でも要求されており、就業力の観点からも重要な能力となっています。本講義の他に、「ITストラテジー」、「ITテクノロジー」を並行して、あるいは順次履修していくことで、最終的にITパスポート試験の出題範囲を全てカバーし、ITパスポート試験の受験対策をすることができます。
		ITテクノロジー	情報端末技術や情報ネットワーク技術等の進歩により、情報システムのあり方が日々変化しています。この授業では情報システムを構築するための情報戦略及び情報システムに関する知識の修得を目的とします。本授業では「ITパスポート試験（シラバス4.0）におけるテクノロジー系分野に準拠」し、ITパスポートで要求されるITリテラシーは、情報系企業だけでなく非IT系企業でも要求されており、就業力の観点からも重要な能力となっています。本講義の他に、「ITストラテジー」、「ITマネジメント」を並行して、あるいは順次履修していくことで、最終的にITパスポート試験の出題範囲を全てカバーし、ITパスポート試験の受験対策をすることができます。
		医療管理学	医療事務とは高度化複雑化する医療現場をサポートする仕事である。つまり、病院や診療所の受付、会計など医事課の仕事と言ってもいい。病院や診療所の受付窓口では患者が持参した保険証をもとにカルテを作成する。ここでは、保険証の見方や医療保険の種類を勉強する。どんな保険証があるか興味深い。
		医療秘書実務	病院や診療所の受付や会計では専門的知識だけではなく、第一印象も求められている。ここでは患者に対するサービス、接遇マナー、電話応対及び一般常識に至るエチケットマナーを学習する。
		医療事務Ⅰ	病院や診療所では、どんな医療が行われているのだろうか。わが国では投薬料、注射料、処置料などそれぞれの診療行為に評価された点数が定められている。1点が10円なので、そこから一部負担金の計算をする。ここでは医療行為の知識と点数表の解釈を勉強する。
		医療事務Ⅱ	患者は会計で一部負担金（3割など）の支払いをする。では徴収しなかった残りの医療費はどのように請求するのだろうか。病院や診療所では明細書を作成し、保険者に請求する。個々では医療事務Ⅰで学習した点数算定を基礎とし明細書の作成や点検を行う。
		地域連携関連科目	コミュニティと観光
	コミュニティとICT	地域における情報通信の環境やICTの利活用について学び、地域再生、活性化につながるプログラミングなどの取り組みを理解する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 学 部 共 通 科 目 地 域 連 携 関 連 科 目	コミュニティとアート	<p>(概要) 音楽や美術をはじめ、あらゆる創作や表現を含む広義で捉えた芸術的活動(アート)が、地域のなかでどのように行われているかを学び、それらが地域社会にどのような影響や効果をもたらすかを考える。また地域の活性化や地域課題解決のために、地域住民とともにアートを共創していくことの意義と方法を探る。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(47 関久美子/6回) アール・ブリュット、障害者アート、ヒューマンライブラリーなど、社会においてマイノリティとされる属性を持つ人々の創作活動や自己表現活動について学び、それらが共生を目的としたコミュニティ形成にどのように貢献し得るか考える。 (48 野口雅史/9回) 地域における音楽会等の計画と実施を通して、イベントマネジメントの実際を学び、音楽を中心とした地域活性化や交流のあり方について考える。</p>	オムニバス
	コミュニティとスポーツ	<p>地域における子ども、障がい者、高齢者など、誰もが参加でき、楽しめるように工夫されたスポーツ(ダンス)について体験的に学び、理解を深める。また、地域住民などの協働により活動できるようなスポーツ(ダンス)の創造を通じた地域づくりに貢献していくことを目指す。</p>	
	レクリエーション論	<p>レクリエーション支援で目指す大きな目的は、「対象者が自らレクリエーション活動を楽しむことをとおして、心を元気にできるようになる」ことである。この大きな目的を達成するために、楽しさを感じる、元気になるといった心の仕組みをこの授業では学ぶ。このような心の仕組みは、支援者が対象者の心の元気づくりを支える際の思考、行動の裏付け(指針・根拠)として活かされる。人の心の仕組みの原則を知ること、対象者個々にあった心の仕組みの作動の仕方を思い図ることができるようになる。そして、対象者への適切な言葉かけ、適切なレクリエーション活動の進め方などを、対象者の心の仕組み(動き)を根拠に考えて、実施することができるようになる。</p>	
	スポーツ・レクリエーション論	<p>レクリエーションは単なる余暇活動ではなく、一人ひとりの生活の質を向上させ、生活の様々な場面で人々を結びつけ、豊かな社会を構築するために不可欠なものである。本講義では、スポーツを活用したレクリエーション活動を通じて、運動に親しんでいない人たちを含め、だれもがスポーツ・レクリエーションを継続的に楽しめる場をクリエイトするために、現代社会におけるスポーツ・レクリエーションの意義と役割について理解を深め、スポーツ・レクリエーション事業を企画・実践するために必要な知識・技術を習得する。</p>	
	レクリエーション活動援助法	<p>レクリエーション活動の社会的意義、及び活動領域について学習し、レクリエーション活動の素材を理解し、支援技術を習得する。また、年代ごとの課題や特徴を知り、ニーズに沿った形で提供できる計画づくりなどの実践援助能力を習得する。</p>	共同
	レクリエーション現場実習	<p>レクリエーション活動が実際に行われている現場において、レクリエーション関連科目での学習をベースとしながら、実際に指導する上で必要となる様々な技術や配慮事項、運営方法等を総合的に学習する。具体的には、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解し、参加した事業について参加者、スタッフ、運営責任者それぞれの立場から分析し、より良い事業にするためのアイデアを生み出すことができるようになることを目指す。そして支援者として、社会から求められるレクリエーションを自らが企画運営できるようになることを学ぶ。</p>	
	福祉レクリエーション論	<p>社会福祉の大きな構造変化の中で、レクリエーション活動の「基盤」の価値と福祉との関わりを歴史的に辿り、レクリエーション活動がどのように発展してきたか、福祉の法体系と行政施策の関連や近年の動向について学び、福祉レクリエーション支援について理解する。また、身近な事例を通じて実践的な援助を取り上げ、援助のエッセンスを分析しながら、社会福祉サービスにおけるレクリエーションの位置づけを明確にし、これからの福祉社会におけるレクリエーション・サービスの全体像を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門科目	学 部 共 通 科 目	地 域 連 携 関 連 科 目	福祉レクリエーション援助論	社会福祉の視点から「自立生活支援」の概念と組み合わせながら、福祉レクリエーション援助の計画作成、実施、評価等のプロセスを概説するとともに、それぞれのプロセスに必要な具体的な技術を習得する。また、福祉レクリエーション援助のためのレクリエーションの素材の分析と分類法、開発とアレンジ法等についても学び、福祉ニーズを有する人々が生きがいをもって生活できるように、個々の障害やニーズにあったレクリエーションを援助するための知識や方法を学ぶ。	
			福祉レクリエーション演習	福祉レクリエーション活動の実践について理解し、援助に必要な「活動分析」や「活動アレンジ」の技術、及びコミュニケーションスキルを身に付ける。また、福祉レクリエーションの援助過程におけるアセスメント・計画・実践・評価の方法を習得する。具体的には、医療・福祉現場でレクリエーションを活用するために必要な「活動分析」や「活動アレンジ」ができ、コミュニケーションスキルを習得し、対人援助にレクリエーションを応用し、個別及び集団レクリエーションのアセスメント、計画、実践、評価を自らができるようになることを演習形式で学ぶ。	
			コミュニティビジネス実践論	(概要) コミュニティビジネスの実践家・団体によるコミュニティビジネスの実状と課題について学び、様々なコミュニティビジネスの事例などを通して地域課題の解決手法としての実践取り組みの効果、これからの展開などについて理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (21 平川毅彦/3回) コミュニティビジネス実践の基本的な考え方について講義を行う。また、福祉事業の起業家(本学卒業生)を招き、事業運営と課題について理解を深める。全体の振り返りと今後の展開についてグループワークを行う。 (45 齋藤(智)/4回) コミュニティビジネスに必要なネットワーク化を可能とする取り組みやコミュニティビジネスを体験する地域デビューの方法及び実例を知る。全体の学びをもとにグループワークを行う。 (27 李在楹/4回) 「まちごと美術館」の取り組みについて、持続可能な社会づくりのために障がいのある人のアートを取り入れた手法、効果、課題等を学ぶ。また実践家をお招き、地域と障がいのある人のアートを通じて結び、新たに生まれる多様性やインクルージョンの価値について理解を深める。 (29 海老田大五朗/4回) 日本全国で見られるコミュニティビジネス先進事例について、「コミュニティメンバーの参加」「社会問題の所在と解決」「ビジネスとして展開することの意義」などの観点から、文献、zoomなどを使用して理解する。	オムニバス
専門科目	学 科 専 門 科 目	教 育 ・ 保 育 の 基 礎 領 域	保育者論	幼稚園教諭等保育者(以下「保育者」)の社会的意義、役割と倫理、保育者の制度的位置づけ(資格、要件、責務等)、保育者の職務内容(養護と教育、保育者の資質・能力、知識・技術及び判断、保育の省察、教育課程による保育の展開と自己評価、身分上の義務等)、保育者の連携・協働(保育と保護者支援にかかわる協働、専門職間及び専門機関との連携、保護者及び地域社会との協働等)について、文献、法令・法規、答申等の資料に基づいて概説する。	
			教育本質論	教育学上の諸思想や諸理論に見られる教育作用の本質、経験と体験、学校の教育目標などについて、教育上の実践的諸問題をもとに概説する。具体的には、陶冶概念の変遷過程、子ども観の変遷過程等とおして、代表的な教育学上の諸思想や諸理論における教育の目的及び教育作用の本質に関する理解を目指す。また、教育基本法や学校教育法、学習指導要領等をもとに、教育法規における教育目標の目標系列の理解を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	教育・保育の基礎領域 学科専門科目	保育原理	保育の歴史を踏まえ、保育の意義と保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育の基本、保育の目標・内容・方法、保育の現状と課題について学ぶ。具体的には、保育所保育指針・幼稚園教育要領等をもとに、保育の意義や、保育におけるケアの意味、体験と経験、環境を通して行う保育、幼児教育における遊びの意義など、保育に関する基本的な原理について学ぶとともに、代表的な保育の思想について学ぶ。さらに、保育の現状と課題についても学ぶ。	
		教育原理	教育の歴史を踏まえ、教育学上の諸思想や諸理論、教育制度、教育実践の基礎などの教育の基礎理論を学ぶ。具体的には、教育の意義や目的並びに子ども家庭福祉等との関連性、教育の諸思想と諸理論の歴史の変遷、日本や諸外国の教育制度、教育実践の基礎理論と実際例、生涯学習社会における教育の現状と課題を学ぶ。	
		保育の計画と評価	幼稚園教育要領等を基準に編成される各園のカリキュラム（教育課程）の目的・機能・意義を実例をもとに概説するとともに、カリキュラム編成の基本原則や教育・保育実践に即したカリキュラムの編成・実施・評価などカリキュラム・マネジメント全体について実践的に修得できるようにする。	
		子どもの健康と安全	<p>（概要）保育所保育指針に基づき、専門職として子どもの心身の健康を守り、保健的な観点をもつた養護の方法や保育環境について、実践（グループワーク、技術演習、プレゼンテーション）を通して身につける。主な教授内容は、育指針第3章「健康および安全」および保健と保育に関連する各種ガイドラインをふまえて以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康と安全管理に対する組織的な取り組みおよび個々の保育者の援助について教授する。 2. 子どもの健康を増進し発達を促す保健活動や環境について教授する。 3. 子どもの疾病やその予防、緊急時の基礎的な対応、家庭や地域との連携等について教授する。 <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（39 久保田美雪／5回） 乳幼児の発育・発達に応じた健康と安全（衛生管理、安全教育、健康教育、感染対策、危機管理・災害対策）について、保健的観点から学ぶ。また、乳幼児の健康を維持・増進するために、保護者（家族）への健康教育および対応を考え、保健活動における保育士の役割と責任を理解する。</p> <p>（41 小島さやか／7回） 乳幼児の発育・発達に合わせた衣・食の健康と安全を、保健的観点から学ぶ。また、子どもの体調不良への適切な対応や、健康の保持増進のための家庭との連携、職員・地域・多職種との連携と協働の重要性を理解し、保健活動における保育士の役割と責任を理解する。</p> <p>（39 久保田美雪・41 小島さやか／3回）（共同） 保育現場における健康管理の基礎的対応を、演習を通して学ぶ。主な演習内容は、救急蘇生法、子どもの健康観察、日常生活上のケアとする。</p>	オムニバス・共同（一部）
		子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や、栄養に関する基本的知識を習得し、子どもの発育との関連について理解する。家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解するとともに、保育所におけるアレルギー対応ガイドラインなどを踏まえ特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。	
子どもの保健	生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味と保健活動の重要性を理解するとともに、心身の健康状態の把握とその方法や、疾病とその予防法、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性について学ぶ。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	教育・保育の基礎領域	教育相談における「相談」とは、個別対応のことである。個別に対応するためには、相手のことを良く知らなければならない。だから、相談における基本は、聴くことである。教育相談における「教育」とは、人格の完成を目指すことであり、つまりその人らしくなることを目指すものである。人にはそれぞれ特徴があり、得意不得意があり、様々な家庭学校環境がある。どのような環境のどのような子供達も、その子らしく幸福に活躍できることを支えるために、またその保護者を支えるために、効果的な方法として教育相談、カウンセリングを学んでいく。	
	保育内容総論	保育目標・子どもの発達・保育内容の関連を踏まえた上で、環境を通して行われ、遊びにより総合的に行われる幼稚園教育および保育所保育の全体的な構造を理解する。	
	教育方法論	これからの社会を担う子ども達に求められている資質・能力を育むために必要となる、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を概説する。具体的には、学習指導要領・幼稚園教育要領等に拠りながら、コンピテンシーとしての資質・能力の育成や主体的・対話的で深い学びの実現が求められていることを概説する。また、教育方法の基礎的な理論としての問題解決学習や発見学習、プログラム学習等の学習方法の系譜を学ぶと共に、小学校における発問を例としながら子どもの考えを引き出す教師の指導の在り方を論ずる。さらに、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、評価の基礎的な考え方等の指導案作成上の留意点を論ずる。さらにまた、GIGAスクール構想後の小学校等にICTの活用の実際を参照しつつ、実際例に基づきながら幼児教育におけるICT等の情報機器の活用の在り方を探る。	
	子どもと健康	領域「健康」の指導に関連する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。	
	健康指導法	幼稚園教育要領・保育所保育指針等をもとに、「健康」領域における目標、内容、方法、配慮事項等に関する理論と実践を学ぶ。具体的には、「健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う」領域である健康領域における目標及び内容等を概説するとともに、具体的な指導場面を想定したうえで、健康領域に関わる集団生活における個人の発達の援助としての知識と態度の習得をはかる。また、健康及び安全にかかわる事項についても学ぶ。	
	子どもと人間関係	領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的に事項について概説する。	
	人間関係指導法	幼児期において育みたい資質・能力を理解し、領域「人間関係」におけるねらい及び内容等についての理解を深めるとともに、発達に即した具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を学ぶ。	
	子どもと環境	領域「環境」の指導の基盤となる、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関りについての専門的な事項について概説する。	
	環境指導法	幼稚園教育要領、保育所保育指針等をもとに領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて、幼児期において育みたい資質能力を育むための指導法を教授する。具体的には、「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」領域であることを概説する。そして、幼児の発達に即した主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」の具体的な指導場面を想定した保育を構想するための指導法を学ぶ。	
	子どもと言葉	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項について概説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	学 科 専 門 科 目	教 育 ・ 保 育 の 内 容 ・ 方 法 領 域	言葉指導法	<p>幼児期において育みたい資質能力について理解し、領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即した領域「言葉」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を学ぶ。</p>	
			子どもと表現	<p>領域「表現」の指導に関連する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。</p>	
			表現指導法	<p>領域「表現」のねらい及び内容を踏まえた上で、幼児の表現の姿やその発達、及び、それを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成の在り方など、領域「表現」に関わる指導方法について学ぶ。</p>	
			乳児保育 I	<p>就学前施設における乳児保育の意義と目的について理解し、現代の実情に応じた乳児保育の現状と課題を整理する。乳児保育、1歳以上3歳未満児保育の保育内容を理解した上で、職員間、他職種・他機関との連携・協働、保護者や地域との関わりによる保育実践の重要性に対する理解を深める。</p>	
			乳児保育 II	<p>(概要) 3歳未満児の発育発達に応じた養護及び教育実践を踏まえ、子どもの生活と遊びに応じた保育の方法及び環境構成について具体的に理解する。心身の健康・安全と情緒の安定を図るため配慮の実践を理解し、養護と教育の一体性を踏まえた指導計画の作成が可能となることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(37 和田由紀子/7回) 3歳未満児の保育に関連する健康と安全について学び、その対応や支援について理解する。またグループワークを通じ、乳児保育と他職種との協働や福祉についても考える。</p> <p>(38 桐原更織/8回) 乳児に起こりやすい健康問題や、特別な配慮が必要な乳児について理解し、必要な支援について学ぶ。また、乳児の健康教育や保健計画、地域における子育て支援についても意見交換を通して学び深める。</p>	オムニバス
			子どもの理解と援助	<p>保育実践においては、子ども一人一人の心身の発達や特性、体験によって得られる学びの過程を理解することが重要である。本講義では、子どもを理解するための具体的な方法を理解し、実態に応じた保育者の援助方法、基本的な態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 佐藤朗子/3回) 保育実践における子ども理解の意義とその基本的な枠組みについて、概説する。</p> <p>(1 中野啓明/5回) 保育の実際場面をもとに、子どもを理解する視点と方法について、概説する。</p> <p>(6 齊藤勇紀/5回) 保育場面における、子どもの理解に基づく発達援助について、概説する。</p> <p>(5 佐藤朗子/1 中野啓明/6 齊藤勇紀/2回) (共同) 第1回は、講義概要、授業計画に基づき、各教員が担当する授業内容の概略を概説する。第15回は、各教員が担当した授業内容の要点と各回の関連性を概説し、本授業のまとめを行う。</p>	オムニバス・共同(一部)
			特別の支援を必要とする乳幼児の保育	<p>特別支援教育・障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、現状や課題、家庭や関係機関との連携について理解する。また、様々な障害について理解を深め、個々の障害特性や発達に応じた援助や配慮を理解し、インクルーシブ教育・保育及び合理的配慮を学ぶ。園の計画による集団包括的な視点と障害児や特別な配慮を要する子どもの姿を個別的な視点から捉える記録・評価により、個々の子どもの学びに即した個別の指導計画を作成する。家庭、保育者同士、関係機関との連携にとどまらず、協働による組織的な支援の在り方を理解する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	教育・保育の内容・方法領域 学科専門科目	子どもの音楽遊び	子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽遊びに関する知識や技術について実践的に学ぶ。具体的には、自然の音や人の声、音楽等に親しみ、楽しい遊びとして展開していくための環境構成及び具体的な技術を習得する。	
		子どもの運動遊び	子どもの遊びと生活を豊かに展開するために必要な運動遊びに関する知識や技術について、実践的に学ぶ。幼児期における多様な動きの経験が生涯の学びにとって重要であることを踏まえ、子どもが主体的・積極的に運動に取り組めるような運動遊びを創作する実践力を身に付ける。	
		子どものことば遊び	保育において遊びの中で言葉を用いることは、子どもが言葉に親しみ、様々な言葉を習得し、言葉の発達を促すことにつながる。この授業では、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な児童文化財に関する知識や技術について実践的に学ぶ。具体的には、子どもの発達を踏まえた上での絵本の読み聞かせ等の知識を身につけ、保育実践を通して技術を習得する。また、子どもの言葉遊びの体験や環境構成について理解する。	
		子どもの造形遊び	本科目は、乳幼児等を対象とした造形活動に必要な知識や技術を習得することを目的とする。様々な材料・技法を用いた制作課題を通して、造形活動が豊かな社会に有用であることへの理解を深めるとともに、経験知から導いた発想力や構想力を身につけていく。	
		保育技術Ⅰ	(概要) 子どもの豊かな感性や表現力を育むために、多様な表現活動の体験を通して、環境構成のための知識と技術を学ぶ。表現の総合性を理解した上で、音楽、造形、身体、言語等の表現技術を総合的に習得する。 (オムニバス方式／全15回) (9 佐藤菜美・8 山口恵子／1回) (共同) 子どもの発達と遊びの関係、遊びの種類と意義、子どもが親しみやすい表現等について概観する。 (9 佐藤菜美／7回) 発達段階を踏まえた、子どもが親しみやすい遊びの特徴とその意義を理解したうえで、総合表現遊びである身体表現遊びの実践に取り組む。さらに、総合的な遊びである劇遊びの展開について実践的に学び理解する。 (8 山口恵子／7回) 子どもの発達における児童文化財の意義を理解した上で、昔話の語りやパネルシアターから子どもが言葉に親しむ環境構成について考える。また、パネルシアターの制作と実践を通して、その技法を習得する。	オムニバス・共同(一部)
	保育技術Ⅱ	子どもの音楽遊びで習得した知識や技術をもとに、歌唱や演奏の技術を高め、音楽的レパートリーを充実させる。子ども達の気持ちや発達段階に応じて、楽しい音楽的な活動を展開することができる保育士としての、即興的な手法についても学ぶ。		
教育・保育の挑戦・追究領域	幼稚園教育実習指導	本授業は、幼稚園教諭1種免許状の取得希望者を対象に、「幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱ」の事前・事後指導として実施し、これからの幼児教育の推進に資する幼稚園教諭になるための基礎知識、技能、基本的態度を、講義、映像教材等を通して学ぶ。事前指導においては、幼稚園教育実習の目的、内容、方法、留意事項を具体的に理解し、保育観察の方法、実習日誌の記録方法、指導計画の作成方法等、基礎的な技能を身につける。事後指導においては、実習を評価・反省し、個々の課題を明確化する。また、実習の経験を基に、グループごとに特定のテーマを討論し、子ども理解、教育、園務の実際、家庭や地域との関係、教育目標達成のための園組織運営および教育職員のあり方について専門的視点を養う。集大成として実習報告書を作成し、実習報告会にて各自の学びを発表する。	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 学科専門科目 教育・保育の挑戦・追究領域	幼稚園教育実習Ⅰ	本実習は、幼稚園における教育・保育の実際について、既習の理論や技術を実際の場で実践し、体験的・主体的に学ぶことにより、幼稚園教諭として必要とされる資質・能力・技術の基本と基礎を身に付ける。そして、幼稚園教諭を目指して、就学前の教育・保育を学ぶ者としての課題を明確にする。	共同
	幼稚園教育実習Ⅱ	本実習は幼稚園教育実習Ⅰの学びや体験、既習の知識と技能を活かして、自ら課題を持ちながら幼児・児童と関わる中で、幼稚園教諭としての職業倫理などの理解を深め、知識・技術・態度の実践的な修得をめざす。さらに、学修した理論を自ら応用しながら実践することを通して、幼稚園教諭としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・教育観をもつようになる。	共同
	保育実習指導Ⅰ	保育実習の意義、目的、内容を理解する。その上で、実習の計画・実践・観察・記録・評価等について具体的に理解し、自らの課題を明確にする。さらに、実習施設における子どもの人権と最善の利益、プライバシー保護や守秘義務等、保育士としての倫理を学ぶ。実習の事後指導を通して、総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確化する。	共同
	保育実習Ⅰ	保育所や居住型児童福祉施設等の内容、機能等を実践現場で体験を通して理解させるとともに、既習の学習内容をもとにしながら総合的に実践する応用力を養う。具体的には、子どもとの関わりを通しての子ども理解を深め、保育士の業務内容や職業倫理について学び、保育の計画・観察・記録および自己評価等について理解することを目指す。	共同
	保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅰをはじめとする既習の教科で学んだことを基礎として、保育について総合的に学び、保育実践力、計画作成力を高めるとともに、保育の改善について、実践や事例を通して学ぶ。また、保育士の専門性と倫理について理解を深める。事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題と認識を明確化する。	共同
	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰにおける実習をもとに、保育所における保育を実際に実践することによって、保育現場に必要な知識・能力・技術を習得し、保育の理解を深め保育士としての資質を高めるとともに、自己の課題を明確化する。また、家庭や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対応する理解・判断力を養い、子育て支援に必要な基礎的能力の涵養を図る。	共同
	保育実践演習	保育者として最小限必要な資質能力の全体を明示的に確認し、自己の課題を自覚したり不足している知識や技能等を補充・定着したりすることを通して、教職生活をより円滑にスタートできるようになる。教職課程で学修した事項と、教育に関する現代的課題をテーマとして、グループ討論等による分析、考察、検討を行うことを通して、科目横断的な学習能力を習得したり、問題を解決するための対応や判断方法等についての学びを深めたりする。	共同
	子ども発達学ゼミナールⅠ	<p>(概要) 1・2年次の学修を振り返り、子ども発達学科教員の専門的な知見と自己の課題意識を統合し、自分の考えを持てるようしながら子ども発達学研究に必要な力を養う。また、3・4年次の学修の見通しを立て、自らの将来進路を明確にするために、就職へ向けての具体的な準備を開始する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2 藤瀬竜子・7 佐藤貴洋/3回) (共同) 課題の抽出からゼミ配属までの全体進行 (4 伊藤充・1 中野啓明/1回) (共同) (5 佐藤朗子・3 渡辺優子/1回) (共同) (6 齊藤勇紀・7 佐藤貴洋/1回) (共同) (9 佐藤菜美・8 山口恵子/1回) (共同) (2 藤瀬竜子/1回) 研究の分野と方法①～⑤ (1 中野啓明・5 佐藤朗子・4 伊藤充・3 渡辺優子・2 藤瀬竜子・6 齊藤勇紀・7 佐藤貴洋・8 山口恵子・9 佐藤菜美/1回) 個別ゼミ演習</p>	オムニバス・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目 学科専門科目	教育・保育の挑戦・追究領域	子ども発達学ゼミナールⅡ	(概要)ゼミナール形式による少人数のクラスで文献検討を行い、発表や他者との意見交換といったお互いのフィードバックを交えながら、自らの考えの修正や論理的な考え方を体得する。特に関心を寄せる事項に注目し、自己課題を様々な視点から捉えなおし、そのなかで生まれてきたアイデアを次の具体的な学修に結び付ける。 また、教育・保育と関連する広範なフィールド(子育て支援施設、放課後デイサービス、放課後児童クラブ、児童発達支援施設、小学校、中学校、特別支援学校等)から選択し、自身で行動計画を立てフィールドワークによる調査を行う。 (オムニバス方式/全8回) (4 伊藤充・6 齊藤勇紀/4回) (共同) 問題意識に基づく課題設定からフィールドワーク選定、振り返りまで (4 伊藤充・3 渡辺優子・1 中野啓明・2 藤瀬竜子・5 佐藤朗子・6 齊藤勇紀・7 佐藤貴洋・8 山口恵子・9 佐藤菜美/4回) 個別ゼミ(データ収集から研究成果の発表と討論まで)	オムニバス・共同(一部)
		子ども発達学ゼミナールⅢ	子ども発達学にかかわる課題についての各自の問いを設定し、それに基づき、フィールドワークや文献研究を進め、課題解決と実践理論の検証をゼミ単位で行う。ゼミナール前半は、教育・保育施設における活動の理論的・実践的研究の整理、調査方法や課題解決に必要な研究方法を検討する。文献研究を進める中で、必要に応じて課題に即した教育・保育施設、自治体や企業、NPO等のフィールドにおいて調査研究を行う。ゼミナール後半は、卒業研究を構想するための中間発表会でまとめと発表を行う。	
		子ども発達学ゼミナールⅣ	子ども発達学ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲを総括し、フィールドワーク、文献検討、調査研究等の方法から得られたデータを用いて分析と考察を行い、自己課題に対して深く考え、調べ、自分の意見を持つ力を養う。他者とのディスカッションを通して、自分の考えと他者の考えの相違点などから論理的思考やそれを言葉にして表すことで学びを深める。	
		卒業研究	大学における学修の集大成として、課題解決の選択肢について、修得した理論と実践を結び付け、教員・ゼミ生と能動的・促進的に意見交換しながら、討論を通じ研究を発展させる。研究計画に沿って遂行して研究課題をまとめ、卒業研究として仕上げ、子ども発達学研究全体発表会で研究報告を行う。	
		子ども家庭支援論	多様な背景をもつ子育てで家庭を支援するためには、保育者と他職種との連携による支援が求められる。本講義では、子育て家庭に対する支援の意義と目的、実際の支援体制を理解する。その上で、保育者の専門性を生かした家庭支援の基本と子育て支援の方法を身につけることを目的とする。	
	子育て支援と地域福祉領域	子ども家庭支援の心理学	家族を構成する各世代の心理学的発達段階の特徴と課題を理解し、子ども、親世代、祖父母世代の相互の関わりが各々の発達課題への取り組みや精神的健康に重要な意味を持つことを理解する。また親としての発達過程や家族のあり方の多様性を知り、家庭支援の心理学的側面を具体的に学ぶ。	
		子育て支援Ⅰ	保育士の行う子育て支援の特性について理解し、具体的な支援方法や社会資源の活用、他機関との連携について理解する。また、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を実践事例等を通して具体的に理解する。	共同
		子育て支援Ⅱ	保護者、地域住民に対する子育て支援は、保育所のみならず、行政諸施策上の重要課題の一つでもある。ここでは、子育て支援の現状と課題について整理を行う。そして、自己の研究テーマを明確にし、子育て支援施設への参与観察、調査などを通じて子育て支援の展開例と関係機関との連携の実際と課題を実践的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	学 科 専 門 科 目	子 育 て 支 援 と 地 域 福 祉 領 域	児童福祉論Ⅰ	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解を深め、児童の権利の観点から児童福祉の諸領域を実際的に学ぶと共に、児童・家庭福祉制度の概要及び専門職の役割、関係機関連携等のネットワークについて学ぶ。特に、児童虐待やドメスティックバイオレンス（DV）の現状やその支援体制、法的根拠について学ぶとともに、相談援助活動に必要となる関連法制度の概要を学ぶ。また、相談援助活動の実際については、児童相談所の役割や機能、支援の実際を中心に学ぶ。	
			児童福祉論Ⅱ	児童・家庭福祉の実施体制と施設体系を具体的に理解するとともに、母子保健、ひとり親家庭、子育て支援サービス、児童健全育成、多様な保育施策、社会的養護、児童虐待対策、障害児支援、ドメスティックバイオレンス（DV）、児童の不応答行動（不登校及び非行等）等の各分野を事項別に学びながら、各分野における現状と課題を学ぶ。さらに、今後の児童・家庭福祉の動向と展望として、次世代育成支援や保育・教育・医療・保健・司法等とのネットワークについても学ぶ。	
			社会的養護Ⅰ	社会的養護の理念や歴史の変遷を学ぶとともに、背景にある社会及び家庭の問題に着目し、現代社会における社会的養護の意義について理解する。法体系、制度について概括し、自立支援、権利擁護の観点から児童の暮らしのあり方について考える。	
			社会的養護Ⅱ	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務について学ぶとともに、施設養護や家庭的養護の実際について学ぶ。また、個々の児童に応じた支援計画を作成することにより日常生活の支援、治療的支援、自立支援について理解し、社会的養護におけるソーシャルワークの方法と技術を理解するとともに、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉への理解を深める。さらに今後の展望や課題として、施設の小規模化や家庭的養護の充実について考える。	
			地域福祉論Ⅰ	地域福祉の概念・機能・展開を理解するとともに、地域福祉の歴史（日本、諸外国）や近年の動向を整理する。また、地域福祉の推進するための、主体、福祉行財政の仕組み、関係組織の役割について考察する。	
			地域福祉論Ⅱ	福祉計画の意義と種類について理解を深める。さらに、地域社会の変化とともに多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズを理解し、その解決方法として地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制、多機関・多職種連携、包括的支援体制と支援のあり方について考察する。	
	学 科 専 門 科 目	社 会 保 障 と 地 域 社 会 領 域	社会保障論Ⅰ	本講義では、社会保障政策の理念・意義・対象、日本の社会保障制度の体系・概要、諸外国の社会保障政策の動向、今後の課題などについて考察する。本講義では、日本の社会保障制度のうち、総論および年金保険、医療保険を取り上げる。（介護保険、労働保険、公的扶助、社会手当、その他福祉制度については、後期「社会保障論Ⅱ」で学ぶ）	
			社会保障論Ⅱ	本講義では、社会保障政策の理念・意義・対象、日本の社会保障制度の体系・概要、諸外国の社会保障政策の動向、今後の課題などについて考察する。本講義では、前期「社会保障論Ⅰ」で検討した医療保険、年金保険に続き、特に日本の社会保障制度のうち、介護保険、労働保険、公的扶助、社会手当と、その他の福祉制度をとりあげ、これらを検討する。	
			障害者福祉論Ⅰ	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会状況や福祉・介護需要及び障害者福祉制度の発展過程及び基本的な考え方（ノーマライゼーション）について、その理論的背景を事例とともに紹介し、相談援助活動を展開していく上で必要となる法制度や実施体制について理解する。また、共通するテーマである自立支援や社会参加を支えるための方法について模索するとともに、障害者福祉に関連するさまざまな施策についても概観することで、共生社会の実現に向けた課題について検討していく上で必要となる知識を涵養する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 学科専門科目 社会保障と地域社会領域	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて考察する。 2. ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について考察する。 3. ソーシャルワークの価値規範と倫理について考察する。	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1. 社会福祉士の職域と求められる役割について考察する。 2. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について考察する。 3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性について考察する。 4. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について考察する。	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	1. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 2. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 3. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。	
	ソーシャルワーク実習指導	社会福祉サービスの具体的実践の場である社会福祉施設・機関などの現場実習体験の前後において、社会福祉士として必要とされる「専門知識」ならびに「専門援助技術」ならびに「関連知識」などの理解を深め、社会福祉援助の技術・能力修得を目指す。	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	本授業では、福祉施設や相談機関等において相談援助実習を体験する。それを通して相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。特に社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を身につけ、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を实践的に理解する。	共同
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	本授業では、福祉施設や相談機関等において相談援助実習を体験する。それを通して相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。特に社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を身につけ、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を实践的に理解する。	共同

学校法人新潟青陵学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由																																																																																																																																																																																																																			
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学部 看護学科</td> <td style="text-align: center;">90</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">360</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>福祉心理学部</u></td> <td style="text-align: center;">140</td> <td style="text-align: center;"><u>10</u></td> <td style="text-align: center;"><u>580</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 社会福祉学科</td> <td style="text-align: center;"><u>90</u></td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;"><u>370</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 社会福祉コース</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">210</td> <td></td> </tr> <tr> <td> <u>子ども発達サポートコース</u></td> <td style="text-align: center;"><u>40</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;"><u>160</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 臨床心理学科</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">210</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">230</td> <td style="text-align: center;"><u>10</u></td> <td style="text-align: center;"><u>940</u></td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学部 看護学科</td> <td style="text-align: center;">90</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">360</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>福祉心理子ども学部</u></td> <td style="text-align: center;">140</td> <td style="text-align: center;"><u>15</u></td> <td style="text-align: center;"><u>590</u></td> <td style="text-align: right;">名称変更</td> </tr> <tr> <td> 社会福祉学科</td> <td style="text-align: center;"><u>50</u></td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;"><u>210</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> <u>子ども発達学科</u></td> <td style="text-align: center;"><u>40</u></td> <td style="text-align: center;"><u>5</u></td> <td style="text-align: center;"><u>170</u></td> <td style="text-align: right;">設置認可</td> </tr> <tr> <td> 臨床心理学科</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">210</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">230</td> <td style="text-align: center;"><u>15</u></td> <td style="text-align: center;"><u>950</u></td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="10"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="10"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table></td></tr></table></td></tr></table>										<p>新潟青陵大学</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学部 看護学科</td> <td style="text-align: center;">90</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">360</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>福祉心理学部</u></td> <td style="text-align: center;">140</td> <td style="text-align: center;"><u>10</u></td> <td style="text-align: center;"><u>580</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 社会福祉学科</td> <td style="text-align: center;"><u>90</u></td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;"><u>370</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 社会福祉コース</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">210</td> <td></td> </tr> <tr> <td> <u>子ども発達サポートコース</u></td> <td style="text-align: center;"><u>40</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;"><u>160</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 臨床心理学科</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">210</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">230</td> <td style="text-align: center;"><u>10</u></td> <td style="text-align: center;"><u>940</u></td> <td></td> </tr> </table>		3年次				看護学部 看護学科	90	-	360						→							3年次				<u>福祉心理学部</u>	140	<u>10</u>	<u>580</u>		社会福祉学科	<u>90</u>	5	<u>370</u>		社会福祉コース	50	5	210		<u>子ども発達サポートコース</u>	<u>40</u>	-	<u>160</u>		臨床心理学科	50	5	210		計	230	<u>10</u>	<u>940</u>		<p>新潟青陵大学</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学部 看護学科</td> <td style="text-align: center;">90</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">360</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>福祉心理子ども学部</u></td> <td style="text-align: center;">140</td> <td style="text-align: center;"><u>15</u></td> <td style="text-align: center;"><u>590</u></td> <td style="text-align: right;">名称変更</td> </tr> <tr> <td> 社会福祉学科</td> <td style="text-align: center;"><u>50</u></td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;"><u>210</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> <u>子ども発達学科</u></td> <td style="text-align: center;"><u>40</u></td> <td style="text-align: center;"><u>5</u></td> <td style="text-align: center;"><u>170</u></td> <td style="text-align: right;">設置認可</td> </tr> <tr> <td> 臨床心理学科</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">210</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">230</td> <td style="text-align: center;"><u>15</u></td> <td style="text-align: center;"><u>950</u></td> <td></td> </tr> </table>		3年次				看護学部 看護学科	90	-	360						→							3年次				<u>福祉心理子ども学部</u>	140	<u>15</u>	<u>590</u>	名称変更	社会福祉学科	<u>50</u>	5	<u>210</u>		<u>子ども発達学科</u>	<u>40</u>	<u>5</u>	<u>170</u>	設置認可	臨床心理学科	50	5	210		計	230	<u>15</u>	<u>950</u>		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="10"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table></td></tr></table>										<p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table>						臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)	10	-	20		看護学研究科 看護学専攻 (M)	6	-	12		計	16		32		<p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table>						臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)	10	-	20		看護学研究科 看護学専攻 (M)	6	-	12		計	16		32		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table>										<p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table>						人間総合学科	200	-	400		幼児教育学科	130	-	260		計	330		660		<p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table>						人間総合学科	200	-	400		幼児教育学科	130	-	260		計	330		660	
<p>新潟青陵大学</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学部 看護学科</td> <td style="text-align: center;">90</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">360</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>福祉心理学部</u></td> <td style="text-align: center;">140</td> <td style="text-align: center;"><u>10</u></td> <td style="text-align: center;"><u>580</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 社会福祉学科</td> <td style="text-align: center;"><u>90</u></td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;"><u>370</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 社会福祉コース</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">210</td> <td></td> </tr> <tr> <td> <u>子ども発達サポートコース</u></td> <td style="text-align: center;"><u>40</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;"><u>160</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 臨床心理学科</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">210</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">230</td> <td style="text-align: center;"><u>10</u></td> <td style="text-align: center;"><u>940</u></td> <td></td> </tr> </table>		3年次				看護学部 看護学科	90	-	360						→							3年次				<u>福祉心理学部</u>	140	<u>10</u>	<u>580</u>		社会福祉学科	<u>90</u>	5	<u>370</u>		社会福祉コース	50	5	210		<u>子ども発達サポートコース</u>	<u>40</u>	-	<u>160</u>		臨床心理学科	50	5	210		計	230	<u>10</u>	<u>940</u>		<p>新潟青陵大学</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学部 看護学科</td> <td style="text-align: center;">90</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">360</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3年次</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>福祉心理子ども学部</u></td> <td style="text-align: center;">140</td> <td style="text-align: center;"><u>15</u></td> <td style="text-align: center;"><u>590</u></td> <td style="text-align: right;">名称変更</td> </tr> <tr> <td> 社会福祉学科</td> <td style="text-align: center;"><u>50</u></td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;"><u>210</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td> <u>子ども発達学科</u></td> <td style="text-align: center;"><u>40</u></td> <td style="text-align: center;"><u>5</u></td> <td style="text-align: center;"><u>170</u></td> <td style="text-align: right;">設置認可</td> </tr> <tr> <td> 臨床心理学科</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">210</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">230</td> <td style="text-align: center;"><u>15</u></td> <td style="text-align: center;"><u>950</u></td> <td></td> </tr> </table>		3年次				看護学部 看護学科	90	-	360						→							3年次				<u>福祉心理子ども学部</u>	140	<u>15</u>	<u>590</u>	名称変更	社会福祉学科	<u>50</u>	5	<u>210</u>		<u>子ども発達学科</u>	<u>40</u>	<u>5</u>	<u>170</u>	設置認可	臨床心理学科	50	5	210		計	230	<u>15</u>	<u>950</u>																																																																																																																			
	3年次																																																																																																																																																																																																																											
看護学部 看護学科	90	-	360																																																																																																																																																																																																																									
				→																																																																																																																																																																																																																								
	3年次																																																																																																																																																																																																																											
<u>福祉心理学部</u>	140	<u>10</u>	<u>580</u>																																																																																																																																																																																																																									
社会福祉学科	<u>90</u>	5	<u>370</u>																																																																																																																																																																																																																									
社会福祉コース	50	5	210																																																																																																																																																																																																																									
<u>子ども発達サポートコース</u>	<u>40</u>	-	<u>160</u>																																																																																																																																																																																																																									
臨床心理学科	50	5	210																																																																																																																																																																																																																									
計	230	<u>10</u>	<u>940</u>																																																																																																																																																																																																																									
	3年次																																																																																																																																																																																																																											
看護学部 看護学科	90	-	360																																																																																																																																																																																																																									
				→																																																																																																																																																																																																																								
	3年次																																																																																																																																																																																																																											
<u>福祉心理子ども学部</u>	140	<u>15</u>	<u>590</u>	名称変更																																																																																																																																																																																																																								
社会福祉学科	<u>50</u>	5	<u>210</u>																																																																																																																																																																																																																									
<u>子ども発達学科</u>	<u>40</u>	<u>5</u>	<u>170</u>	設置認可																																																																																																																																																																																																																								
臨床心理学科	50	5	210																																																																																																																																																																																																																									
計	230	<u>15</u>	<u>950</u>																																																																																																																																																																																																																									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="10"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table></td></tr></table>										<p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table>						臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)	10	-	20		看護学研究科 看護学専攻 (M)	6	-	12		計	16		32		<p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table>						臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)	10	-	20		看護学研究科 看護学専攻 (M)	6	-	12		計	16		32		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table>										<p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table>						人間総合学科	200	-	400		幼児教育学科	130	-	260		計	330		660		<p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table>						人間総合学科	200	-	400		幼児教育学科	130	-	260		計	330		660																																																																																																																						
<p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table>						臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)	10	-	20		看護学研究科 看護学専攻 (M)	6	-	12		計	16		32		<p>新潟青陵大学大学院</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> <td style="text-align: center;">32</td> <td></td> </tr> </table>						臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)	10	-	20		看護学研究科 看護学専攻 (M)	6	-	12		計	16		32																																																																																																																																																																																				
臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)	10	-	20																																																																																																																																																																																																																									
看護学研究科 看護学専攻 (M)	6	-	12																																																																																																																																																																																																																									
計	16		32																																																																																																																																																																																																																									
臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 (M)	10	-	20																																																																																																																																																																																																																									
看護学研究科 看護学専攻 (M)	6	-	12																																																																																																																																																																																																																									
計	16		32																																																																																																																																																																																																																									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table>										<p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table>						人間総合学科	200	-	400		幼児教育学科	130	-	260		計	330		660		<p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table>						人間総合学科	200	-	400		幼児教育学科	130	-	260		計	330		660																																																																																																																																																																										
<p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table>						人間総合学科	200	-	400		幼児教育学科	130	-	260		計	330		660		<p>新潟青陵大学短期大学部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合学科</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">130</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">330</td> <td></td> <td style="text-align: center;">660</td> <td></td> </tr> </table>						人間総合学科	200	-	400		幼児教育学科	130	-	260		計	330		660																																																																																																																																																																																				
人間総合学科	200	-	400																																																																																																																																																																																																																									
幼児教育学科	130	-	260																																																																																																																																																																																																																									
計	330		660																																																																																																																																																																																																																									
人間総合学科	200	-	400																																																																																																																																																																																																																									
幼児教育学科	130	-	260																																																																																																																																																																																																																									
計	330		660																																																																																																																																																																																																																									